

## 列王記第一

1 ダビデ王は年を重ね、非常に老いていた。人々は彼に衣を掛けたが、王は温まらなかった。

2 それゆえ、彼のしもべたちは彼に言った。「わが君、王のために若い処女を探させましょう。彼女を王の前に立たせ、王の世話をさせます。そして、わが君、王が温まるように、王のふところでお寝させましょう。」

3 そこで彼らはイスラエルの全土で美しい若い女を探し、シュネム人アビシャグを見つけ、彼女を王のもとに連れて来た。

4 その若い女は非常に美しかった。彼女は王の世話をし、彼に仕えた。しかし、王は彼女と床を共にすることはなかった。

5 その時、ハギテの息子アドニヤは高ぶって、「わたしが王になる」と言った。彼は自分のために戦車と騎兵、そして自分の前を走る五十人の男たちを用意した。

6 彼の父はこれまで一度も、「なぜこのようなことをしたのか」と言って彼を戒めたことがなかった。彼は非常に容姿の良い男で、アブサロムの後生まれた者であった。

7 彼はツェルヤの息子ヨアブ、および祭司アビアタルと協議した。彼らはアドニヤに従い、彼を支持した。

8 しかし祭司ツアドク、エホヤダの息子ベナヤ、預言者ナタン、シメイ、レイ、そしてダビデに属する勇士たちは、アドニヤに味方しなかった。

9 アドニヤはエン・ロゲルのそばにあるツォヘレテの石の傍らで、羊、牛、肥えた家畜をいけにえと

してささげ、王の息子たちであるすべての兄弟たちと、王のしもべであるユダのすべての男たちを招いた。

10 しかし彼は、預言者ナタン、ベナヤ、勇士たち、そして兄弟のソロモンは招かなかった。

11 そこでナタンはソロモンの母バテ・シェバに語って言った。「ハギテの息子アドニヤが王となり、われわれの主君ダビデはそれを知らないということを、あなたは聞いていないのですか。

12 ですから今、来てください。どうか、わたしに助言させてください。あなたが自分の命と、息子ソロモンの命を救うためです。

13 ダビデ王のところに入って行き、彼に言いなさい。『わが君、王よ。あなたはしもべに誓って、「確かにあなたの息子ソロモンがわたしの後に王となり、わたしの王座に座る」と言われたではありませんか。それなら、なぜアドニヤが王となっているのですか。』

14 見よ、あなたがそこで王と話している間に、わたしもあなたの後から入って行き、あなたの言葉を確認なものとしませう。」

15 バテ・シェバは部屋にいる王のところに入って行った。王は非常に年老いており、シュネム人アビシャグが王に仕えていた。

16 バテ・シェバは身をかがめ、王に敬意を表した。

王は、「何が望みか」と言った。

17 彼女は彼に言った。「わが君。あなたはあなたの神、主\*にかけて、あなたのしもべに『確かにあ

---

\* 1:17 1:17 すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה (ヤハウェ) から来

あなたの息子ソロモンがわたしの後に王となり、彼はわたしの王座に座る』と誓われました。

18 今、見よ、アドニヤが王となっています。そして、わが君、王はそれを知っておられません。

19 彼は牛、肥えた家畜、羊を豊かにいけにえとしてささげ、王のすべての息子たち、祭司アビアタル、軍の長ヨアブを招きました。しかし、あなたのしもべソロモンは招いていません。

20 わが君、王よ。全イスラエルの目はあなたに向けられています。わが君、王の後にだれがその王座に座るかを、あなたが彼らに告げるためです。

21 そうでなければ、わが君、王が父祖たちとともに眠りにつくとき、わたしとわたしの息子ソロモンは罪人たちとみなされることとなります。」

22 見よ、彼女がまだ王と話している間に、預言者ナタンが入って来た。

23 人々は王に告げて、「見よ、預言者ナタンです」と言った。

彼が王の前に入って来たとき、彼は地に顔を伏せて王の前に身をかがめた。

24 ナタンは言った。「わが君、王よ。あなたは『アドニヤがわたしの後に王となり、わたしの王座に座る』と言われたのですか。

25 彼は今日下って行き、牛、肥えた家畜、羊を豊かにいけにえとしてささげ、王のすべての息子たち、軍の長たち、祭司アビアタルを招きました。見よ、彼らは彼の前で食べたり飲んだりし、『アドニヤ王、万歳!』と言っています。

26 しかし彼は、あなたのしもべであるわたし、祭司ツアドク、エホヤダの息子ベナヤ、そしてあなたのしもべソロモンを招きませんでした。

27 これはわが君、王によってなされたことですか。そしてあなたは、わが君、王の後にだれがその王座に座るかを、あなたのしもべたちに示されなかったのですか。」

28 そこでダビデ王は答えて、「バテ・シェバをわたしのところに呼べ」と言った。彼女は王の御前に来て、王の前に立った。

29 王は誓って言った。「あらゆる逆境からわたしの魂を贖い出してくださった主は生きておられる。

30 『確かにあなたの息子ソロモンがわたしの後に王となり、彼はわたしに代わってわたしの王座に座る』と言って、わたしがイスラエルの神、主にかけてあなたに誓ったとおりに、わたしは今日そのように行う。」

31 そこでバテ・シェバは地に顔を伏せて身をかがめ、王に敬意を表して、「わが君、ダビデ王がとこしえに生きられますように」と言った。

32 ダビデ王は、「祭司ツアドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤをわたしのところに呼べ」と言った。彼らは王の前に来た。

33 王は彼らに言った。「あなたがたの主君のしもべたちを連れて行き、わたしの息子ソロモンをわたし自身の騾馬に乗せ、彼をギホンへ連れて下りなさい。

34 そこで祭司ツアドクと預言者ナタンは、彼に油を注いでイスラエルの王としなさい。角笛を吹き鳴らし、『ソロモン王、万歳!』と言いなさい。

35 それからあなたがたは彼の後について上って来なさい。彼は来て、わたしの王座に座らなければならない。彼がわたしに代わって王となるからである。わたしは彼を、イスラエルとユダの上の君主となるよう任命した。」

36 エホヤダの息子ベナヤは王に答えて言った。「アーメン。わが君、王の神である主が、そのように言われますように。」

37 主がわが君、王とともにおられたように、ソロモンとともにおられ、彼の王座を、わが君ダビデ王の王座よりも大いなるものとされますように。」

38 そこで祭司ツアドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤ、およびケレテ人とペレテ人は下って行き、ソロモンをダビデ王の騾馬に乗せ、彼をギホンへ連れて行った。

39 祭司ツアドクは天幕から油の角を取り出し、ソロモンに油を注いだ。彼らは角笛を吹き鳴らし、すべての民は「ソロモン王、万歳!」と言った。

40 すべての民は彼の後について上って来た。民は笛を吹き鳴らし、大きな喜びをもって喜んだので、地は彼らの音で揺れ動いた。

41 アドニヤと彼とともにいたすべての客は、食事を終えたときにこれを聞いた。ヨアブは角笛の音を聞くと、「なぜ町はあのように騒がしいのか」と言った。

42 彼がまだ話している間に、見よ、祭司アビアタルの息子ヨナタンがやって来た。アドニヤは、「入れ。あなたは立派な人だから、良い知らせを持って来たのだ」と言った。

43 ヨナタンはアドニヤに答えた。「いいえ。それどころか、われわれの主君ダビデ王はソロモンを王とされました。」

44 王は祭司ツアドク、預言者ナタン、エホヤダの息子ベナヤ、それにケレテ人とペレテ人を彼とともに遣わされました。彼らは彼を王の騾馬に乗せました。

45 祭司ツァドクと預言者ナタンは、ギホンで彼に油を注いで王としました。彼らはそこから喜びながら上って来たので、町は響き渡りました。あなたがたが聞いたのはその音です。

46 さらに、ソロモンは王国の王座に座っています。

47 その上、王のしもべたちはわれわれの主君ダビデ王を祝福しに来て、『あなたの神が、ソロモンの名をあなたの名よりも良くし、彼の王座をあなたの王座よりも大いなるものとされますように』と言いました。すると王は寝台の上で身をかがめられました。

48 さらに王はこう言われました。『イスラエルの神、主はほめたたえられるように。主は今日、わたしの王座に座る者を与えられ、わたしの目もそれを見ている。』

49 アドニヤの客たちは皆恐れ、立ち上がって、それぞれ自分の道へ行った。

50 アドニヤはソロモンを恐れ、立ち上がって行き、祭壇の角をつかんだ。

51 ソロモンに告げる者がいた。「見よ、アドニヤはソロモン王を恐れています。見よ、彼は祭壇の角をつかんで、『ソロモン王がそのしもべを剣で殺さないと、まずわたしに誓ってくださるように』と言っています。」

52 ソロモンは言った。「もし彼が誠実な者であることを示すなら、彼の髪の毛一本も地に落ちることはない。しかし、もし彼に悪が見つければ、彼は死ぬ。」

53 こうしてソロモン王は人を遣わし、彼らは彼を祭壇から連れて下った。彼は来てソロモン王に身をかがめた。ソロモンは彼に、「あなたの家へ帰りなさい」と言った。

## 2

1 さて、ダビデが死ぬ日が近づいたとき、彼は息子のソロモンに命じて言った。

2 「わたしは地上のすべての者が行く道を行こうとしている。それゆえ、あなたは強くあり、男らしくありなさい。

3 そして、あなたの神、主の教えを守り、主の道に歩み、モーセの律法に書かれているとおりに、主の掟、戒め、定め、あかしを守りなさい。あなたが何を行うにしても、どこへ向かうにしても、あなたが栄えるためである。

4 それは、主がわたしについて語られた言葉を確立されるためである。主は『もしあなたの子らがその道に注意を払い、心を尽くし魂を尽くして真実をもってわたしの前を歩むなら、イスラエルの王座から人が絶えることはない』と言われた。」

5 「さらに、あなたはツエルヤの息子ヨアブがわたしにしたこと、すなわち彼がイスラエルの軍の二人の長、ネルの息子アブネルとエテルの息子アマサにしたことも知っている。彼は彼らを殺し、平和な時に戦いの血を流し、その戦いの血を自分の腰の帯と、足のサンダルに塗った。

6 それゆえ、あなたの知恵にしたがって行い、彼の白髪頭を安らかによみ\*  
へ下らせてはならない。

7 しかし、ギレアデ人バルジライの息子たちには慈しみを示し、彼らをあなたの食卓で食べる者たちの仲間に入れなさい。あなたの兄弟アブサロムからわたしが逃げたとき、彼らはそのようにしてわたしのところへ来てくれたからである。

8 見よ、バブリム出身のベニヤミン人、ゲラの息子シメイがあなたとともにいる。わたしがマハナイ

\* 2:6 2:6 よみ (シエオル) は死者の場所である。

ムへ行った日、彼はひどい呪いでわたしを呪った。しかし彼はヨルダン川でわたしを迎えに下つて来たので、わたしは主にかけて彼に誓い、『わたしはあなたを剣で殺すことはしない』と言った。

9 ですから今、彼を無罪のままにさしてはならない。あなたは知恵のある男だから、彼に何をすべきかを知っているはずだ。あなたは彼の白髪頭を血とともによみへ下らせなさい。」

10 ダビデは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町に葬られた。

11 ダビデがイスラエルを治めた日数は四十年であった。彼はヘブロンで七年治め、エルサレムで三十三年治めた。

12 ソロモンは父ダビデの王座に座り、彼の王国は確かなものとして確立された。

13 その後、ハギテの息子アドニヤはソロモンの母バテ・シェバのところに来た。彼女は「穏やかな用件で来たのですか」と言った。

彼は「穏やかな用件です」と言った。

14 彼はさらに、「あなたにお話ししたいことがあります」と言った。

彼女は「話しなさい」と言った。

15 彼は言った。「王国がわたしのものであり、全イスラエルがわたしを王とするためにわたしに顔を向けていたことを、あなたはご存じです。しかし王国は転じて、わたしの兄弟のものとなりました。それが主によって彼のものとなったからです。

16 今、わたしはあなたに一つの願い事があります。わたしの願いを退けないでください。」

彼女は彼に、「話しなさい」と言った。

17 彼は言った。「どうか、ソロモン王に話して――彼はあなたの願いを退けないでしょうから――

シュネム人アビシヤグをわたしの妻として与えるようにしてください。」

18 バテ・シェバは、「わかりました。あなたのために王に話しましょう」と言った。

19 そこでバテ・シェバはアドニヤのために話をするために、ソロモン王のところへ行った。王は彼女を迎えるために立ち上がり、彼女に身をかがめた。それから自分の王座に座り、王の母のために王座を置かせたので、彼女は王の右に座った。

20 すると彼女は、「あなたに一つ小さな願い事があります。わたしを拒まないでください」と言った。

王は彼女に、「母上、願ってください。わたしはあなたを拒みません」と言った。

21 彼女は言った。「シュネム人アビシヤグを、あなたの兄弟アドニヤに妻として与えてください。」

22 ソロモン王は母に答えた。「なぜあなたは、アドニヤのためにシュネム人アビシヤグを願うのですか。彼のために王国をも願ってください。彼はわたしの兄だからです。彼のため、また祭司アビアタルのため、そしてツエルヤの息子ヨアブのためにも。」

23 そこでソロモン王は主にかけて誓って言った。「アドニヤが自分の命に逆らってこの言葉を語ったのでないなら、神がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。」

24 ですから今、わたしを確立し、父ダビデの王座にわたしを座らせ、約束されたとおりにわたしのために家を造ってくださった主は生きておられる。確かにアドニヤは今日殺される。」

25 ソロモン王はエホヤダの息子ベナヤを遣わし、彼がアドニヤに打ちかかったので、彼は死んだ。

26 王は祭司アビアタルに言った。「アナトテにある自分の畑へ行きなさい。あなたは死に値する者である。しかし、今日はあなたを殺さない。あなたはわたしの父ダビデの前で主<sup>†</sup>なる神の箱を担ぎ、またわたしの父が苦しめられたすべてのことにおいて、あなたも苦しめられたからだ。」

27 こうしてソロモンは、アビアタルを主の祭司から追放した。これは主がシロでエリの家について語られた言葉を成就するためであった。

28 その知らせはヨアブに届いた。ヨアブはアブサロムには従わなかったが、アドニヤには従っていたからである。ヨアブは主の天幕に逃げ込み、祭壇の角をつかんだ。

29 ソロモン王に、「ヨアブは主の天幕に逃げ込み、見よ、祭壇のそばにいます」と告げられた。そこでソロモンはエホヤダの息子ベナヤを遣わして、「行って、彼に打ちかかれ」と言った。

30 ベナヤは主の天幕に来て彼に、「王が『出て来い!』と言っておられる」と言った。

彼は「いや、わたしはここで死ぬ」と言った。

ベナヤは、「ヨアブはこのように言い、わたしにこのように答えた」と言って王に再び言葉をもち帰った。

31 王は彼に言った。「彼が言ったとおりにし、彼に打ちかかり、彼を葬りなさい。そうして、ヨアブが流した罪のない血を、わたしとわたしの父の家から取り除きなさい。」

32 主は彼自身の血を彼自身の頭に帰らせるであろう。彼が、自分よりも義であり善良である二人の男に打ちかかり、剣で彼らを殺し、わたし

† 2:26 2:26 「主」と訳された言葉は「アドナイ」である。

の父ダビデがそれを知らなかったからである。すなわち、イスラエルの軍の長であるネルの息子アブネルと、ユダの軍の長であるエテルの息子アマサである。

33 このようにして彼らの血はヨアブの頭と、彼の子孫<sup>‡</sup>の頭にとこしえに帰るであろう。しかし、ダビデとその子孫、彼の家、そして彼の王座には、主からの平和がとこしえにあるであろう。」

34 そこでエホヤダの息子ベナヤは上って行き、彼に打ちかかって彼を殺した。そして彼は荒野にある自分の家に葬られた。

35 王は軍においてエホヤダの息子ベナヤを彼の代わりに就かせ、王はアビアタルの代わりに祭司ツアドクを就かせた。

36 王は人を遣わしてシメイを呼び、彼に言った。「エルサレムに自分のための家を建ててそこに住み、そこからどこへも出て行ってはならない。

37 あなたが出て行き、キデロンの川を渡る日には、あなたが必ず死ぬことを確かに知っておけ。あなたの血はあなた自身の頭に帰る。」

38 シメイは王に言った。「その言葉は良いものです。わが君、王が言われたとおりに、あなたのしもべは行きます。」シメイは多くの日々をエルサレムに住んだ。

39 三年の終わりに、シメイの二人の奴隷がガテの王、マアカの息子アキシユのところへ逃げた。人々がシメイに告げて、「見よ、あなたの奴隷たちはガテにいます」と言った。

40 シメイは起き上がり、自分のろばに鞍を置き、自分の奴隷たちを探すためにガテのアキシユのところへ行った。そしてシメイは行き、自分の奴隷たちをガテから連れ帰った。

‡ 2:33 2:33 または、種

41 シメイがエルサレムからガテに行き、また帰って来たことがソロモンに告げられた。

42 王は人を遣わしてシメイを呼び、彼に言った。「わたしはあなたに主にかけて誓わせ、『あなたが出て行き、どこかほかのところへ歩いて行く日には、必ず死ぬことを確かに知っておけ』と言って、厳しく警告したではないか。あなたはわたしに『わたしが聞いた言葉は良いものです』と言った。

43 それならなぜ、あなたは主の誓いと、わたしがあなたに命じた戒めを守らなかったのか。」

44 王はさらにシメイに言った。「あなたは、自分がわたしの父ダビデにしたすべての悪を心で知っている。それゆえ、主はあなたの悪をあなた自身の頭に帰らせるであろう。

45 しかし、ソロモン王は祝福され、ダビデの王座は主の御前でとこしえに確立される。」

46 そこで王はエホヤダの息子ベナヤに命じ、彼は出て行って彼に打ちかかったので、彼は死んだ。王国はソロモンの手によって確立された。

### 3

1 ソロモンはエジプトの王ファラオと縁組みし、ファラオの娘をめとった。そして、彼自身の家、主の家、およびエルサレムの周囲の城壁を建て終えるまで、彼女をダビデの町に住ませた。

2 そのころまで、主の御名のために建てられた家がなかったので、民はただ高き所でいけにえをささげていた。

3 ソロモンは父ダビデの定めに歩み、主を愛した。ただ、彼は高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。

4 王はいけにえをささげるためにギベオンへ行った。それが偉大な高き所であったからである。ソロ

モンはその祭壇に一千の全焼のささげ物をささげた。

<sup>5</sup> ギベオンで主は夜の夢の中でソロモンに現れ、神は言われた。「わたしがあなたに何を与えるべきか求めよ。」

<sup>6</sup> ソロモンは言った。「あなたのしもべであるわたしの父ダビデが、真実と義と、あなたに対する心のまっすぐさをもってあなたの御前を歩んだので、あなたは彼に大いなる慈しみを示されました。あなたは彼のためにこの大いなる慈しみを保ち、今日あるように、彼の王座に座る息子を彼にお与えになりました。」

<sup>7</sup> 今、わたしの神、主よ、あなたは父ダビデの代わりに、あなたのしもべを王とされました。しかしわたしは小さな子どもにすぎず、どのように出入りすればよいのかを知りません。

<sup>8</sup> あなたのしもべは、あなたが選ばれた、あなたの民の中にいます。彼らは大いなる民で、数が多すぎて数えることも量ることもできません。

<sup>9</sup> ですから、あなたの民をさばくための、聞き分ける心をあなたのしもべに与え、善と悪をわかきまえることができるようにしてください。そうしなければ、だれがあなたのこの大いなる民をさばくことができるのでしょうか。」

<sup>10</sup> ソロモンがこの事を求めたので、この言葉は主の御目に良いとされた。

<sup>11</sup> 神は彼に言われた。「あなたがこの事を求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず、またあなたの敵の命を求めることもせず、むしろさばきを聞き分ける理解力を自分のために求めたので、

<sup>12</sup> 見よ、わたしはあなたの言葉のとおりにした。見よ、わたしはあなたに知恵と理解のある心を与えた。そのため、あなたの前にあなたのような者はな

く、あなたの後にもあなたのような者は起こらないであろう。

13 わたしはまた、あなたが求めなかったもの、すなわち富と誉れをもあなたに与えた。そのため、あなたの生涯にわたり、王たちの中にあなたのような者はいないであろう。

14 もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、わたしの掟と戒めを守ってわたしの道を歩むなら、わたしはあなたの日々を長くする。」

15 ソロモンが目を覚ますと、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに来て、主の契約の箱の前に立ち、全焼のささげ物をささげ、和解のいけにえをささげ、すべてのしもべたちのために宴会を催した。

16 その後、二人の遊女が王のところに来て、彼の前に立った。

17 一人の女は言った。「ああ、わが君、わたしとこの女は一つの家に住んでいます。わたしは家で彼女と一緒にいる間に子どもを産みました。

18 わたしが産んでから三日目に、この女も子どもを産みました。われわれは一緒にいました。われわれ二人のほかに、家の中には見知らぬ人はだれもいませんでした。

19 この女の子どもは夜に死にました。彼女がその子の上に寝てしまったからです。

20 彼女は真夜中に起き上がり、このはしためが眠っている間に、わたしのそばからわたしの息子を取り、自分のふところに寝かせ、自分の死んだ子どもをわたしのふところに寝かせました。

21 わたしが自分の子どもに乳を飲ませようと朝起きてみると、見よ、子どもは死んでいました。しかし、朝になってわたしがよく見ると、見よ、それはわたしが産んだ息子ではありませんでした。」

22 もう一人の女は言った。「いいえ、生きているのがわたしの息子で、死んでいるのがあなたの息子です。」

この女は言った。「いいえ、死んでいるのがあなたの息子で、生きているのがわたしの息子です。」このように、二人は王の前で言い争った。

23 そこで王は言った。「一人は『生きているのがわたしの息子で、あなたの息子は死んでいる者だ』と言い、もう一人は『いいえ、あなたの息子が死んでいる者で、わたしの息子が生きている者だ』と言っている。」

24 王は言った。「わたしに剣を持って来なさい。」彼らは王の前に剣を持って来た。

25 王は言った。「生きている子どもを二つに切り分け、半分を一方に、残りの半分をもう一方に与えよ。」

26 すると、生きている子どもの母親である女が王に言った。自分の息子のために心が激しく動いたからである。「ああ、わが君、生きている子どもを彼女に与えてください。決してその子を殺さないでください！」

しかし、もう一人は言った。「それはわたしのものでもあなたのものでない。それを切り分けよ。」

27 すると王は答えて言った。「生きている子どもを彼女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその母親である。」

28 全イスラエルは王が下したさばきを聞いて、王を恐れた。さばきを行うための神の知恵が彼の中にあるのを見たからである。

## 4

1 ソロモン王は全イスラエルの上の王であった。

2 彼の高官たちは次のとおりである。祭司、ツアドクの息子アザルヤ、

3 書記官、シシャの息子たちであるエリホレフとアヒヤ、記録官、アヒルデの息子ヨシヤファテ、

4 軍の長、エホヤダの息子ベナヤ、祭司、ツアドクとアビアタル、

5 代官たちの長、ナタンの息子アザルヤ、主要な大臣であり、王の友である、ナタンの息子ザブデ、

6 宮内長、アヒシャル、強制労働に服する者たちの長、アブダの息子アドニラム。

7 ソロモンは全イスラエルの上に十二人の役人を置いており、彼らが王とその家族のために食糧を供給した。それぞれが年に一か月、食糧を供給することになっていた。

8 彼らの名は次のとおりである。エフライムの山地のベン・フル、

9 マカツ、シャルビム、ベテ・シエメシュ、エロン・ベテ・ハナンのベン・デケル、

10 アルボテのベン・ヘセド（彼にはソコとヘフェルの全地が属していた）、

11 ドルの全高地のベン・アヒナダブ（彼はソロモンの娘タファテを妻としていた）、

12 タアナク、メギド、そしてエズレルの下にあるツアレタンのそばの全ベテ・シャン、すなわちベテ・シャンからアベル・メホラ、さらにヨクメアムの向こうに至るまでのアヒルデの息子バアナ、

13 ラモテ・ギレアデのベン・ゲベル（彼にはギレアデにあるマナセの息子ヤイルの町々が属していた。また彼には、城壁と青銅のかんぬきを持つ六十の大きな町々があるバシヤンのアルゴブの地方が属していた）、

14 マハナイムのイドの息子アヒナダブ、

- 15 ナフタリのアヒマアツ（彼もソロモンの娘バセマトを妻としてめとっていた）、
- 16 アシエルとベアロテのフシャイの息子バアナ、
- 17 イッサカルのパルアの息子ヨシャファテ、
- 18 ベニヤミンのエラの息子シメイ、
- 19 ギレアデの地、すなわちアモリ人の王シホンの国とバシヤンの王オグの国における、ウリの息子ゲベル。彼はその地にいる唯一の役人であった。
- 20 ユダとイスラエルは海辺の砂のように数が多く、食べたり飲んだりして喜んでいた。
- 21 ソロモンは、川からペリシテ人の地、またエジプトの境界に至るまでのすべての王国を治めた。彼らは貢ぎ物を持って来て、ソロモンの生涯にわたり彼に仕えた。
- 22 ソロモンの一日分の食糧は、上等の小麦粉三十コル\*、粗挽きの小麦粉六十コル、
- 23 肥えた牛十頭、牧草地の牛二十頭、羊百頭であり、このほかに鹿、ガゼル、ノロジカ、肥えた鳥もあつた。
- 24 彼は川のこちら側の全地方、すなわちティフサからガザに至るまで、川のこちら側のすべての王たちを支配していた。彼には周囲の四方に平和があつた。
- 25 ユダとイスラエルは、ソロモンの生涯にわたり、ダンからベエルシェバに至るまで、それぞれ自分のぶどうの木の下と、いちじくの木の下で安全に住んでいた。
- 26 ソロモンには戦車用の馬の厩舎が四万と、騎兵が一万二千人いた。
- 27 それらの役人たちは、それぞれ自分の担当の月に、ソロモン王とソロモン王の食卓に来るす

\* 4:22 4:22 一コルは一ホメルと同じで、約211リットル、または6ブッシェルである。

すべての者のために食糧を供給した。彼らは何一つ不足させなかった。

28 彼らはまた、それぞれが命じられたとおりに、馬や早馬のための大麦とわらを役人たちがいる場所に持って来た。

29 神はソロモンに、海辺の砂のように非常に豊かな知恵と理解、広い心を与えられた。

30 ソロモンの知恵は、東のすべての子らの知恵と、エジプトのすべての知恵に勝っていた。

31 彼はすべての人よりも賢く、エズラ人エタン、マホルの息子たちであるヘマン、カルコル、ダルダよりも賢かった。彼の名声は周囲のすべての国々に広まった。

32 彼は三千の箴言を語り、彼の歌は千五であった。

33 彼はレバノンにある杉から、城壁に生えるヒソプに至るまで、木々について語った。彼はまた、獣、鳥、這うもの、魚についても語った。

34 ソロモンの知恵を聞くために、すべての民の中から、また彼の知恵について聞いた地上のすべての王たちのもとから人々がやって来た。

## 5

1 ツロの王ヒラムは自分のしもべたちをソロモンのもとに遣わした。彼が父に代わって油を注がれ、王となったことを聞いたからである。ヒラムは常にダビデを愛する者であったからだ。

2 ソロモンはヒラムのもとに人を遣わして言った。

3 「わたしの父ダビデが、その周囲の四方にあった戦いのために、彼の神、主の御名のために家を建てることができなかったことをあなたにご存じです。主が彼らを彼の足の裏の下に置かれるまで。

4 しかし今、わたしの神、主は四方でわたしに安息を与えてくださいました。敵対する者はおらず、わざわいも起こりません。

5 見よ、わたしはわたしの神、主の御名のために家を建てようと考えています。主がわたしの父ダビデに語って、『あなたの代わりに、わたしがあなたの王座に就かせるあなたの息子が、わたしの名のためにその家を建てる』と言われたとおりです。

6 ですから今、わたしのためにレバノンから杉の木を切り出すよう命じてください。わたしのしもべたちはあなたのしもべたちとともにおります。わたしはあなたが言われるとおりに、あなたのしもべたちへの賃金をあなたに払います。われわれの中には、シドン人のように木を切り出すことを知っている者がいないことを、あなたをご存じだからです。」

7 ヒラムはソロモンの言葉を聞くと大いに喜び、そして言った。「今日、主はほめたたえられるように。主はダビデに、この大いなる民を治める知恵のある息子を与えられた。」

8 ヒラムはソロモンのもとに人を遣わして言った。「あなたがわたしに遣わされた伝言を聞きました。わたしは杉の木材と糸杉の木材に関するあなたのすべての願いを行います。」

9 わたしのしもべたちがレバノンから海へそれらを下ろします。わたしはそれらをいかに組んで、あなたがわたしに指定する場所まで海路で送り、そこでそれらを解かせますので、あなたはそれらを受け取ってください。あなたはわたしの家族に食糧を与えて、わたしの願いをかなえてください。」

10 こうしてヒラムはソロモンに、彼のすべての願いのとおりには杉の木材と糸杉の木材を与えた。

11 ソロモンはヒラムの家族の食糧として、小麦二万コル\*と、純粹な油二十コル†をヒラムに与えた。ソロモンは年々、このようにしてヒラムに与えた。

12 主は約束されたとおりにソロモンに知恵を与えられた。ヒラムとソロモンの間には平和があり、この二人はともに契約を結んだ。

13 ソロモン王は全イスラエルから徴用者を召集した。その徴用者は三万人であった。

14 彼は彼らを月ごとに一万人ずつ、交代でレバノンへ遣わした。彼らは一か月はレバノンに、二か月は家にいた。アドニラムが強制労働に服する者たちの長であった。

15 ソロモンには荷を担ぐ者が七万人、山で石を切り出す者が八万人いた。

16 そのほかに、仕事の指揮を執るソロモンの主な役人たちが三千三百人おり、彼らは仕事に服する民を監督した。

17 王が命じると、彼らは切り石で家の基を据えるために、大きな石、高価な石を切り出した。

18 ソロモンの建築者たちとヒラムの建築者たち、それにゲバル人たちは、それらを切り出し、家を建てるための木材と石を準備した。

## 6

1 イスラエルの子らがエジプトの地を出てから四百八十年目、ソロモンがイスラエルを治めて四年目のジブの月、すなわち第二の月に、彼は主の家を建て始めた。

\* 5:11 5:11 二万コルは約4,220キロリットルで、小麦の重さでは約3,270メートルトンに

† 5:11 5:11 二十コルは約4,220リットルである。

2 ソロモン王が主のために建てた家は、長さが六十キュビト\*、幅が二十キュビト、高さが三十キュビトであった。

3 家の神殿の前にある玄関は、長さが家の幅と同じく二十キュビト、家の前にあるその幅は十キュビトであった。

4 彼は家のために、格子のはめ込まれた窓を造った。

5 彼は家の壁、すなわち神殿と内側の聖所の周囲にある家の壁に沿って、その周囲に階を建てた。そして周囲に脇部屋を造った。

6 一番下の階は幅が五キュビト、中間の階は幅が六キュビト、三番目の階は幅が七キュビトであった。彼が梁を家の壁に差し込まなくてもよいように、家の壁の周囲の外側に段を設けたからである。

7 家は建てられていたとき、石切り場で準備された石で建てられたので、建てられている間、家の中ではハンマーも斧も、いかなる鉄の道具の音も聞こえなかった。

8 中間の脇部屋への入り口は、家の右側にあった。人々はらせん階段で中間の階へ上り、中間の階から三番目の階へ上った。

9 こうして彼は家を建て、それを完成させた。そして杉の梁と板で家を覆った。

10 彼は家全体に沿って、高さ五キュビトの階を建てた。それらは杉の木材で家に接していた。

11 主のことばがソロモンに臨んで言った。

12 「あなたが建てているこの家について言うなら、もしあなたがわたしの定めに歩み、わたし

---

\* 6:26:2 一キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、または18

の掟を行い、わたしのすべての戒めを守ってその通りに歩むなら、わたしはあなたの父ダビデに語ったわたしの言葉を、あなたに対して確立する。

13 わたしはイスラエルの子らの間に住み、わたしの民イスラエルを見捨てることはない。」

14 こうしてソロモンは家を建て、それを完成させた。

15 彼は家の内側の壁を杉の板で造った。家の床から天井に至るまで、内側を木で覆い、家の床を杉の板で覆った。

16 彼は家の奥に、床から天井まで杉の板で二十キュビトを造った。彼はそれを内側の聖所、すなわち至聖所として内側に造った。

17 その前の家、すなわち神殿は四十キュビトであった。

18 内側の家の杉の木には、つぼみと開いた花の彫刻が施されていた。すべてが杉であり、石は一つも見えなかった。

19 彼は主の契約の箱をそこに置くために、家の内側の奥に内側の聖所を準備した。

20 内側の聖所の内部は、長さが二十キュビト、幅が二十キュビト、高さが二十キュビトであった。彼はそれを純金で覆い、祭壇を杉で覆った。

21 こうしてソロモンは家の内側を純金で覆った。彼は内側の聖所の前に金の鎖を渡し、それを金で覆った。

22 彼は家全体が完成するまで、家全体を金で覆った。彼はまた、内側の聖所に属する祭壇の全体を金で覆った。

23 彼は内側の聖所に、高さ十キュビトのオリーブの木で二つのケルビム<sup>†</sup>を造った。

<sup>†</sup> 6:23 6:23 「ケルビム」は「ケルブ」の複数形で、御使いのような存在である。

24 ケルブの一つの翼は五キュビト、ケルブのもう一つの翼も五キュビトで、一方の翼の端からもう一方の翼の端までは十キュビトであった。

25 もう一つのケルブも十キュビトであった。両方のケルビムは同じ寸法、同じ形であった。

26 一つのケルブの高さは十キュビトであり、もう一つのケルブも同様であった。

27 彼は内側の家の中にケルビムを置いた。ケルビムの翼は広げられていたので、一方の翼は一方の壁に届き、もう一方のケルブの翼はもう一方の壁に届いていた。そしてそれらの翼は、家の中央で互いに届いていた。

28 彼はケルビムを金で覆った。

29 彼は家の周囲のすべての壁に、内側も外側も、ケルビム、なつめやしの木、開いた花の彫刻を施した。

30 彼は家の床を、内側も外側も金で覆った。

31 彼は内側の聖所の入り口に、オリーブの木で扉を造った。まぐさと門柱は壁の五分の一であった。

32 彼はオリーブの木で二つの扉を造り、そこにケルビム、なつめやしの木、開いた花の彫刻を施し、それらを金で覆った。彼はケルビムとなつめやしの木の上に金を延べた。

33 また彼は神殿の入り口のために、壁の四分の一のオリーブの木で門柱を造り、

34 糸杉の木で二つの扉を造った。一方の扉の二つの戸板は折りたたみ式であり、もう一方の扉の二つの戸板も折りたたみ式であった。

35 彼はケルビム、なつめやしの木、開いた花を彫り、彫刻された細工にぴったりと合うように金を覆った。

36 彼は内庭を、切り石の三つの層と、杉の梁の一つの層で造った。

37 四年目のジブの月に主の家の基が据えられた。

38 そして十一年目のブルの月、すなわち第八の月に、そのすべての部分に至るまで、すべての仕様どおりに家は完成した。こうして彼は七年かけてそれを建てた。

## 7

1 ソロモンは自分の家を十三年かけて建て、その家のすべてを完成させた。

2 彼はレバノンの森の家を建てた。その長さは百キュビト\*、幅は五十キュビト、高さは三十キュビトで、四列の杉の柱の上であり、柱の上には杉の梁があった。

3 それは柱の上にある四十五本の梁の上を杉で覆われており、一列に十五本ずつあった。

4 梁は三列あり、窓は三つの層で互いに向かい合っていた。

5 すべての入り口と門柱は梁で四角く造られていた。そして窓は三つの層で互いに向かい合っていた。

6 彼は柱の玄関を造った。その長さは五十キュビト、幅は三十キュビトで、それらの前に玄関があり、それらの前に柱と敷居があった。

7 彼はまた、さばきを行うための王座の玄関、すなわちさばきの玄関を造った。それは床から床まで杉で覆われていた。

8 玄関の内側のもう一つの庭にある、彼が住むための家も、同じような造りであった。ソロモンはま

\* 7:27:2 一キュビトは肘から中指の先までの長さで、約46センチメートル、または18

た、（彼が妻としてめとった）ファラオの娘のためにも、この玄関のような家を造った。

<sup>9</sup>これらはすべて、内側も外側も、基から笠石に至るまで、また外側から大庭に至るまで、寸法に従ってのこぎりで切られた、高価な石、すなわち切り石でできていた。

<sup>10</sup>その基は高価な石、すなわち大きな石であった。十キュビトの石と、八キュビトの石である。

<sup>11</sup>その上には、寸法に従って切られた高価な切り石と、杉があった。

<sup>12</sup>大庭の周囲には、主の家の内庭と家の玄関のように、切り石の三つの層と杉の梁の一つの層があった。

<sup>13</sup>ソロモン王は人を遣わして、ツロからヒラムを呼び寄せた。

<sup>14</sup>彼はナフタリの部族のやもめの息子であり、彼の父はツロの人で青銅の細工師であった。彼は青銅のあらゆる仕事を行うための知恵と理解と技術に満ちていた。彼はソロモン王のもとに来て、そのすべての仕事を行った。

<sup>15</sup>彼は青銅の二本の柱を鑄造した。一本の柱の高さは十八キュビトであり、もう一本の柱は十二キュビトの糸で周囲を測ることができた。

<sup>16</sup>彼は柱の頂に置くために、青銅を溶かして二つの柱頭を造った。一つの柱頭の高さは五キュビト、もう一つの柱頭の高さも五キュビトであった。

<sup>17</sup>柱の頂にある柱頭のために、編み目細工の網、鎖の細工の花綱があった。一つの柱頭に七つ、もう一つの柱頭に七つであった。

<sup>18</sup>こうして彼は柱を造った。柱の頂にある柱頭を覆うために、一つの網の上に二列のざくろが周囲にあった。もう一つの柱頭にもそのようにした。

19 玄関の柱の頂にある柱頭は、ゆりの花の形をしており、四キュビトであった。

20 二本の柱の上にある柱頭には、網のそばのふくらみの上にぎくろがあった。そのぎくろは二百個あり、もう一つの柱頭の周囲にも列をなしていた。

21 彼は神殿の玄関に柱を立てた。彼は右の柱を立ててその名をヤキンと呼び、左の柱を立ててその名をボアズと呼んだ。

22 柱の頂にはゆりの花の細工があった。こうして柱の仕事は完了した。

23 彼は鑄造の海を造った。端から端まで十キュビトの円形で、高さは五キュビト、周囲は三十キュビトの糸で測ることができた。

24 その端の下には周囲にひょうたんの飾りがそれを取り囲んでおり、一キュビトにつき十個ずつ、海の周囲を取り囲んでいた。そのひょうたんの飾りは、それが鑄造されたときに二列に鑄造されたものであった。

25 それは十二頭の牛の上に載っていた。三頭は北を向き、三頭は西を向き、三頭は南を向き、三頭は東を向いていた。海はそれらの上に載っており、それらの後ろの体はすべて内側に向いていた。

26 その厚さは手幅であり、その縁は杯の縁のように、ゆりの花のように造られていた。それには二千バテが入った。

27 彼は青銅の十個の台座を造った。一つの台座の長さは四キュビト、幅は四キュビト、高さは三キュビトであった。

28 台座の造りは次のとおりである。それらには鏡板があり、鏡板は枠の間にあった。

29 枠の間にある鏡板の上には、獅子、牛、ケルビムがあった。枠の上には台座があり、獅子と牛の下には垂れ下がった花網の細工があった。

30 一つの台座には青銅の四つの車輪と青銅の軸があり、その四つの足には肩があった。洗盤の下は肩は鑄造されたもので、それぞれの花綱のそばにあった。

31 その口は柱頭の内側から上へ一キュビトであった。その口は台座の細工のように円形で、一キュビト半であった。またその口の上には彫刻があり、その鏡板は丸くなく四角であった。

32 鏡板の下には四つの車輪があり、車輪の軸は台座にあった。一つの車輪の高さは一キュビト半であった。

33 車輪の造りは戦車の車輪の造りのようであった。その軸、縁、輻、こしきは、すべて鑄造されたものであった。

34 一つの台座の四隅には四つの肩があった。その肩は台座の一部であった。

35 台座の頂には高さ半キュビトの丸い帯があった。台座の頂にあるその支えと鏡板は、それと一体であった。

36 彼はその支えの板と鏡板の上に、それぞれの空間の広さに応じて、ケルビム、獅子、なつめやしの木を彫り、その周囲に花綱を彫った。

37 彼はこのようにして十個の台座を造った。それらはみな同じ鑄型、同じ寸法、同じ形であった。

38 彼は青銅の十個の洗盤を造った。一つの洗盤には四十バテ<sup>†</sup>

が入り、一つの洗盤は四キュビトであった。十個の台座のそれぞれの上に一つの洗盤があった。

39 彼は台座の五つを家の右側に、五つを家の左側に置いた。彼は海を家の右側、東の方、南に向かって置いた。

<sup>†</sup> 7:38 7:38 一バテは一コルの十分の一で、約21リットルである。したがって四十バテは

40 ヒラムは鍋、十能、鉢を造った。こうしてヒラムは、ソロモン王のために主の家で行うすべての仕事を終えた。

41 すなわち、二本の柱と、柱の頂にある柱頭の二つの鉢と、柱の頂にある柱頭の二つの鉢を覆う二つの網と、

42 二つの網のための四百個のざくろ（一つの網につき二列のざくろがあり、柱の上にある柱頭の二つの鉢を覆っていた）と、

43 十個の台座と台座の上の十個の洗盤と、

44 一つの海と海の下の十二頭の牛と、

45 鍋、十能、鉢である。ヒラムが主の家のためにソロモン王のために造ったこれらのすべての器は、磨かれた青銅であった。

46 王はヨルダンの平野で、スコテとツアレタン間の粘土の地でこれらを鑄造した。

47 器は非常に多かったので、ソロモンはそれらをすべて量らないでおいた。青銅の重さは量りきれなかった。

48 ソロモンは主の家にあるすべての器を造った。金の祭壇と、供えのパンを載せる金の机と、

49 純金の燭台（内側の聖所の前に右に五つ、左に五つ）と、金の花、ともしび、芯切りばさみと、

50 純金の杯、芯切りばさみ、鉢、さじ、火皿と、内側の家、すなわち至聖所の扉と、神殿の家の扉のための金の蝶番である。

51 こうして、ソロモン王が主の家のために行ったすべての仕事は終わった。ソロモンは父ダビデが聖別したものの、すなわち銀、金、器を運び入れ、それらを主の家の宝物庫に納めた。

## 8

1 その時、ソロモンはイスラエルの長老たち、部

族のすべての頭たち、すなわちイスラエルの子らの父の家の君主たちを、エルサレムのソロモン王のもとに集めた。主の契約の箱をダビデの町、すなわちシオンから運び上げるためであった。

<sup>2</sup> エタニムの月、すなわち第七の月の祭りに、イスラエルのすべての男たちがソロモン王のもとに集まった。

<sup>3</sup> イスラエルのすべての長老たちが来て、祭司たちは箱を担ぎ上げた。

<sup>4</sup> 彼らは主の箱、会見の天幕、および天幕の中にあつたすべての聖なる器を運び上つた。祭司たちとレビ人たちがこれらを運び上つた。

<sup>5</sup> ソロモン王と、彼のもとに集まったイスラエルの全会衆は、箱の前において、数えることも量ることもできないほど多くの羊や牛をいけにえとしてささげた。

<sup>6</sup> 祭司たちは主の契約の箱をその定めのある場所、すなわち家の内側の聖所である至聖所に、ケルビムの翼の下に運び入れた。

<sup>7</sup> ケルビムは箱の置かれた場所の上に両翼を広げ、上から箱とその担ぎ棒を覆っていた。

<sup>8</sup> 担ぎ棒は長かったので、その端は内側の聖所の前の聖所から見えたが、外からは見えなかつた。それらは今日に至るまでそこにある。

<sup>9</sup> イスラエルの子らがエジプトの地を出たとき、主が彼らと契約を結ばれたホレブで、モーセがそこに置いた二枚の石の板のほかには、箱の中には何もなかつた。

<sup>10</sup> 祭司たちが聖所から出て来たとき、雲が主の家に満ちた。

<sup>11</sup> そのため、祭司たちは雲のゆえに立つて仕えることができなかつた。主の栄光が主の家に満ちたからである。

12 その時、ソロモンは言った。「主は、ご自分が暗やみの中に住むと言われました。

13 わたしは確かにあなたのために住まいの家を、あなたがとこしえに住むための場所を建てました。」

14 王は振り向いて、イスラエルの全会衆を祝福した。イスラエルの全会衆は立っていた。

15 彼は言った。「イスラエルの神、主はほめたたえられるように。主はご自分の口でわたしの父ダビデに語られ、ご自分の手でそれを成し遂げて言われました。

16 『わたしがわたしの民イスラエルをエジプトから導き出した日から、わたしの名がそこにあるようにと、家を建てるためにイスラエルのすべての部族の中からどの町も選ばなかった。しかしわたしは、わたしの民イスラエルの上に立つようにダビデを選んだ。』

17 わたしの父ダビデの心には、イスラエルの神、主の御名のために家を建てる思いがありました。

18 しかし主はわたしの父ダビデに言われました。『あなたの心にはわたしの名のために家を建てる思いがあつたが、その思いを心に抱いたことは良いことであつた。

19 それでも、あなたがその家を建ててはならない。あなたの腰から出るあなたの息子が、わたしの名のためにその家を建てる。』

20 主はご自分が語られた言葉を果たされました。主が約束されたとおりに、わたしは父ダビデに代わって立ち、イスラエルの王座に座り、イスラエルの神、主の御名のために家を建てました。

21 わたしはそこに、主がわれわれの父祖たちをエジプトの地から導き出されたときに彼らと結ばれ

た、主の契約を納めた箱のための場所を設けました。」

22 ソロモンはイスラエルの全会衆の前で主の祭壇の前に立ち、天に向かって両手を広げて、

23 言った。「イスラエルの神、主よ。上は天にも、下は地にも、あなたのような神はいません。あなたは、心を尽くしてあなたの前を歩むあなたのしもべたちに対して、契約と慈しみを守られます。

24 あなたはご自分のしもべであるわたしの父ダビデに約束したことを守られました。はい、あなたはご自分の口で語り、今日あるように、ご自分の手でそれを成し遂げられました。

25 ですから今、イスラエルの神、主よ、ご自分のしもべであるわたしの父ダビデに約束して、『あなたの子らが自分の道に注意を払い、あなたがわたしの前を歩んだようにわたしの前を歩むなら、イスラエルの王座に座る者があなたのうちからわたしの前で絶えることはない』と言われたことを彼のために守ってください。

26 今、イスラエルの神よ、どうか、ご自分のしもべであるわたしの父ダビデにお語りになった言葉を、確かなものとしてください。

27 しかし、神は本当に地上に住まわれるでしょうか。見よ、天も、天の天も、あなたをお入れすることはできません。まして、わたしが建てたこの家があなたをお入れすることは、なおさらできません。

28 しかし、あなたのしもべの祈りと願いに顔を向け、わたしの神、主よ、あなたのしもべが今日あなたの前で祈る叫びと祈りを聞き入れてください。

29 あなたが『わたしの名がそこにある』と言われた場所、この家に向けて、昼も夜もあなたの目が開かれていますように。あなたのしもべがこ

の場所に向けてささげる祈りを、あなたが聞き入れてくださるためです。

30 あなたのしもべと、あなたの民イスラエルがこの場所に向けてささげる願いを聞き入れてください。はい、あなたの住まいである天で聞いてください。そして聞いて、お赦してください。

31 もし人が隣人に罪を犯し、彼に誓いを立てさせるために誓いが課せられ、彼が来てこの家にあるあなたの祭壇の前で誓うなら、

32 あなたは天で聞いて行い、あなたのしもべたちをさばいてください。悪者には有罪を宣告してその行いを彼の頭に帰らせ、義人には義を宣告してその義にしたがって彼に報いてください。

33 あなたの民イスラエルがあなたに対して罪を犯したため、敵の前で打ち負かされたとき、彼らがあなたに立ち返ってあなたの御名を告白し、この家であなたに祈り求めるなら、

34 あなたは天で聞いて、あなたの民イスラエルの罪を赦し、あなたが彼らの父祖たちに与えた地へ彼らを連れ戻してください。

35 彼らがあなたに対して罪を犯したため、天が閉ざされて雨が降らないとき、もし彼らがこの場所に向けて祈り、あなたの御名を告白し、あなたが彼らを苦しめられたときにその罪から立ち返るなら、

36 あなたは天で聞いて、あなたのしもべたちとあなたの民イスラエルの罪を赦してください。あなたが彼らに歩むべき良い道を教えられ、あなたの民にゆずりの地として与えられたあなたの地に雨を降らせてください。

37 もしこの地にききんが起きたとき、疫病が起きたとき、胴枯れ病、黒穂病、いなご、青虫が発生したとき、敵が彼らの地の町々で彼らを包囲したとき、どんな災厄、どんな病気であっても、

38 どんな祈り、どんな願いでも、どんな人によっても、あるいはあなたの民イスラエル全体によってもささげられ、各自が自分の心の疫病を知り、この家に向けて両手を広げるなら、

39 あなたはあなたの住まいである天で聞いて赦し、行い、各人のすべての道にしたがって報いてください。あなたはその人の心をご存じだからです。人の子らのすべての心をご存じなのは、あなただけだからです。

40 それは、あなたがわれわれの父祖たちに与えられた地の面で彼らが生きるすべての日々、彼らがあなたを恐れるためです。

41 さらに、あなたの民イスラエルに属さない外国人についても、彼があなたの御名のために遠い国から来たとき

42 (彼らはあなたの大いなる御名と、力強い御手と、伸ばされた腕について聞くからです)、彼が来てこの家に向けて祈るなら、

43 あなたはあなたの住まいである天で聞いて、その外国人があなたに呼び求めるすべてのことにしたがって行ってください。地上のすべての民があなたの御名を知り、あなたの民イスラエルと同じようにあなたを恐れ、わたしが建てたこの家があなたの御名によって呼ばれていることを知るためです。

44 あなたが遣わされる道で、あなたの民が敵と戦うために出て行くとき、彼らが主のお選びになった町と、わたしがあなたの御名のために建てた家に向けて主に祈るなら、

45 あなたは天で彼らの祈りと願いを聞き、彼らの訴えを取り上げてください。

46 彼らがあなたに対して罪を犯し(罪を犯さない人はいないからです)、あなたが彼らに向かっ

て怒り、彼らを敵に引き渡し、彼らが遠くであ  
れ近くであれ、敵の地に捕らえられて行ったとき、

47 もし彼らが捕らえられて行った地で自分自  
身に立ち返り、悔い改めて、捕らえられた地であな  
たに願ひ、『われわれは罪を犯し、よこしまなこと  
を行い、悪を行いました』と言ひ、

48 彼らを捕らえて行った敵の地で、心を尽く  
し魂を尽くしてあなたに立ち返り、あなたが彼ら  
の父祖たちに与えられた彼らの地、あなたがお選び  
になった町、そしてわたしがあなたの御名のため  
に建てた家に向けてあなたに祈るなら、

49 あなたはあなたの住まいである天で彼らの祈り  
と願ひを聞き、彼らの訴えを取り上げ、

50 あなたに対して罪を犯したあなたの民を赦し、  
彼らがあなたに対して犯したすべての背きを赦し、  
彼らを捕らえて行った者たちが彼らをあわれむよう  
に、彼らの前にあわれみを与えてください。

51 彼らはエジプトから、鉄の炉の中からあなた  
が導き出されたあなたの民、あなたのゆずりの地だ  
からです。

52 あなたの目があなたのしもべの願ひと、あなた  
の民イスラエルの願ひに向かつて開かれ、彼らがあ  
なたに呼び求めるときにはいつでも、彼ら  
の声を聞いてくださいますように。

53 主なる神よ、あなたがわれわれの父祖たちをエ  
ジプトから導き出されたとき、あなたのしもべモー  
セを通して語られたように、あなたは彼らを、地  
上のすべての民の中からご自分のゆずりの地とし  
て取り分けられたからです。」

54 ソロモンは、天に向かつて両手を広げてひざま  
ずいていた主の祭壇の前から立ち上がり、主へのこ  
のすべての祈りと願ひをささげ終えた。

55 彼は立ち上がり、大声でイスラエルの全会

衆を祝福して言った。

56 「約束されたすべてのことにしたがって、ご自分の民イスラエルに安息を与えられた主はほめたたえられるように。主がそのしもべモーセを通して語られたすべての良い約束の言葉のうち、一言も果たされなかったものはない。

57 われわれの神、主が、われわれの父祖たちとともにおられたように、われわれとともにおられますように。主がわれわれを見放すことも、見捨てることもありませんように。

58 主がわれわれの心をご自分に向けさせ、われわれが主のすべての道を歩み、主がわれわれの父祖たちに命じられた戒め、定め、掟を守るようにしてくださいますように。

59 わたしが主の御前でささげたこれらのわたしの願いの言葉が、昼も夜もわれわれの神、主の近くにあり、主がご自分のしもべの訴えと、ご自分の民イスラエルの訴えを、日ごとに必要に応じて取り上げてくださいますように。

60 地上のすべての民が、主こそ神であり、ほかに神はいないことを知るためです。

61 ですから、あなたがたの心をわれわれの神、主に対して完全なものとし、今日しているように、主の定めに従い、主の戒めを守りなさい。」

62 王と、彼とともにいた全イスラエルは、主の御前にいけにえをささげた。

63 ソロモンは主にささげる和解のいけにえとして、牛二万二千頭と羊十二万頭をささげた。こうして王とイスラエルのすべての子らは主の家を奉獻した。

64 その日、王は主の家の前にある庭の中央を聖別した。そこに全焼のささげ物、穀物のささげ物、和解のいけにえの脂肪をささげたからであ

る。主の御前にあった青銅の祭壇は小さすぎて、全焼のささげ物、穀物のささげ物、和解のいけにえの脂肪を載せきれなかったからである。

65 その時、ソロモンは祭りを祝い、彼とともに全イスラエル、すなわちハマテの入り口からエジプトの川に至るまでの大いなる会衆が、われわれの神、主の御前で七日間とさらに七日間の十四日間にわたって祝った。

66 八日目に、彼は民を去らせた。彼らは王を祝福し、主がそのしもベダビデと、その民イスラエルに示されたすべての良いことを心に喜び、楽しみながら自分たちの天幕へ帰って行った。

## 9

1 ソロモンが主の家と王の家、また自分が喜んで行おうとしたすべてのことを建て終えたとき、

2 主はかつてギベオンで彼に現れたように、二度目にソロモンに現れられた。

3 主は彼に言われた。「わたしは、あなたがわたしの前にささげた祈りと願いを聞いた。わたしはあなたが建てたこの家を聖別し、わたしの名をそこにとこしえに置く。わたしの目とわたしの心は、常にそこにある。

4 あなたについて言えば、もしあなたが、あなたの父ダビデが歩んだように、全き心とまっすぐな心をもってわたしの前を歩み、わたしがあなたに命じたすべてのことにしたがって行い、わたしの定めとわたしの掟を守るなら、

5 わたしはあなたの父ダビデに約束して、『イスラエルの王座から人があなたの前で絶えることはない』と言ったとおりに、イスラエルの上にあるあなたの王国の王座をとこしえに確立する。

6 しかし、もしあなたがた、あるいはあなたがたの子らがわたしに従うことから背き去り、わたしがあなたがたの前に置いたわたしの戒めとわたしの定めを守らず、行って他の神々に仕え、それらを拝むなら、

7 わたしは、わたしが彼らに与えた地からイスラエルを断ち切る。そして、わたしがわたしの名のために聖別したこの家を、わたしの目の前から投げ捨てる。こうしてイスラエルは、すべての民の間でことわざとなり、笑いぐさとなる。

8 この家は高くそびえていても、そこを通り過ぎる者は皆驚き、あざけて言うであろう。『なぜ主はこの地と、この家に対してこのようなことをされたのか。』

9 そして彼らは答えるであろう。『彼らが自分たちの父祖たちをエジプトの地から導き出された彼らの神、主を捨てて、他の神々を堅く握り、それらを拝み、それらに仕えたからだ。それゆえ、主はこのすべての悪を彼らの上にもたらされたのである。』」

10 ソロモンが二つの家、すなわち主の家と王の家を建てた二十年の終わりに、

11 (ツロの王ヒラムはソロモンに、杉の木、糸杉の木、および金を、彼のすべての願いにしたがって提供していたので)、ソロモン王はガリラヤの地にある二十の町をヒラムに与えた。

12 ヒラムはソロモンが彼に与えた町々を見るためにツロから出て来たが、それらは彼の気に入らなかった。

13 彼は言った。「わたしの兄弟よ、あなたがわたしに与えたこれらの町々は何なのですか。」彼はそ

れらをカブル\*の地と呼び、今日に至っている。

14 ヒラムは百二十タラント†の金を王に送っていた。

15 ソロモン王が強制労働を徴用した理由はこれである。主の家、自分の家、ミロ、エルサレムの城壁、ハツオル、メギド、そしてゲゼルを建てるためであった。

16 エジプトの王ファラオは上って来てゲゼルを攻め取り、それを火で焼き、その町に住んでいたカナン人を殺し、それをソロモンの妻である自分の娘への結婚の贈り物として与えていた。

17 ソロモンはゲゼル、下ベテ・ホロン、

18 バアラテ、およびその地の荒野にあるタマルを建てた。

19 また、ソロモンが持っていたすべての倉庫の町々、戦車のための町々、騎兵のための町々、そしてソロモンがエルサレム、レバノン、および彼の支配する全地で自分の楽しみのために建てたいと願ったものを建てた。

20 イスラエルの子らではない、アモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の残りのすべての民について言えば、

21 イスラエルの子らが完全に滅ぼし尽くすことができなかった、その地に彼らの後に残された彼らの子らを、ソロモンは奴隷の徴用者とし、今日に至っている。

22 しかし、イスラエルの子らの中からは、ソロモンはだれも奴隷にしなかった。彼らは戦士、彼のしもべ、彼の君主、彼の隊長、また彼の戦車と騎兵の長たちであった。

\* 9:139:13 「カブル」は、ヘブル語で「無価値」を意味する言葉に似ている。

† 9:149:14 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。百二十タラントは約

23 これらはソロモンの仕事を監督する主な役人たちで、五百五十人おり、仕事で働く民を支配していた。

24 しかし、ファラオの娘がダビデの町から、ソロモンが彼女のために建てた彼女の家の上つて来た。その後、彼はミロを建てた。

25 ソロモンは年に三度、彼が主のために築いた祭壇で全焼のささげ物と和解のいけにえをささげ、主の前にあった祭壇でそれらとともに香をたいた。こうして彼は家を完成させた。

26 ソロモン王は、エドムの地にあり、紅海の岸辺のエロテのそばにあるエツヨン・ゲベルで船団を造った。

27 ヒラムはその船団に、海を知っている水夫である自分のしもべたちを、ソロモンのしもべたちと一緒に遣わした。

28 彼らはオフィルへ行き、そこから四百二十タラントの金を取り、それをソロモン王のもとに持って来た。

## 10

1 シェバの女王は主の御名に関するソロモンの名声を聞き、難問をもって彼を試すためにやって来た。

2 彼女は非常に大きな随員を伴い、香料と非常に多くの金と宝石を積んだらくだを連れてエルサレムに来た。彼女はソロモンのところに来ると、自分の心にあるすべてのことを彼に話した。

3 ソロモンは彼女のすべての質問に答えた。王にとって隠されていて、彼が彼女に告げなかったことは一つもなかった。

4 シェバの女王はソロモンのすべての知恵と、彼が建てた家、

5 彼の食卓の食べ物、彼のしもべたちの席、彼の大臣たちの給仕とその衣服、彼の献酌官たち、そして彼が主の家へ上って行く上り段を見たとき、彼女は息をのむほどであった。

6 彼女は王に言った。「わたしが自分の国で、あなたの事績とあなたの知恵について聞いたうわさは本当でした。

7 しかし、わたしが来て、自分の目で見るとは、その言葉を信じませんでした。見よ、その半分もわたしに告げられてはいませんでした。あなたの知恵と繁栄は、わたしが聞いた名声に勝っています。

8 あなたの部下たちは幸いである。常にあなたの前に立ち、あなたの知恵を聞くこれらのあなたのしもべたちは幸いである。

9 あなたを喜び、あなたをイスラエルの王座に就かせられたあなたの神、主はほめたたえられるように。主はイスラエルをとこしえに愛されたので、公正と義を行わせるために、あなたを王とされたのです。」

10 彼女は王に百二十タラント\*の金と、非常に多くの香料と宝石を与えた。シェバの女王がソロモン王に与えたような多くの香料は、二度と入って来ることはなかった。

11 オフィルから金を運んで来たヒラムの船団もまた、オフィルから非常に多くのアルムグの木†と宝石を運んで来た。

12 王はアルムグの木で主の家と王の家のための柱を造り、また歌う者たちのために豎琴と弦楽

\* 10:10 10:10 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。百二十タラント

† 10:11 10:11 おそらくインド産の白檀で、美しい木目と心地よい香りがあり、木工に適

器を造った。今日に至るまで、そのようなアルムグの木が入って来たことも、見られたこともなかった。

13 ソロモン王は、王の寛大さから彼女に与えたもののほかに、シェバの女王のすべての願い、彼女が求めたすべてのものを彼女に与えた。こうして彼女は引き返し、自分のしもべたちとともに自分の国へ帰って行った。

14 一年の間にソロモンのところに入つて来た金の重さは、六百六十六タラントの金であった。

15 このほかに、貿易商たちが持って来たもの、商人たちの取引によるもの、さまざまな民のすべての王たち、およびその国の総督たちからのものがあった。

16 ソロモン王は打ち延ばした金で二百の大盾を造った。一つの大盾には六百シェケル<sup>‡</sup>の金が使われた。

17 また彼は打ち延ばした金で三百の盾を造った。一つの盾には三ミナ<sup>§</sup>の金が使われた。王はそれらをレバノンの森の家に置いた。

18 さらに王は象牙の大きな王座を造り、それを最高級の金で覆った。

19 王座には六つの段があり、王座の頂は後ろが丸くなっていた。座席の場所の両側にはひじ掛けがあり、ひじ掛けのそばには二頭の獅子が立っていた。

20 六つの段の上には、一方の側ともう一方の側に十二頭の獅子が立っていた。どの王国でも、これに似たものは造られたことがなかった。

<sup>‡</sup> 10:16 10:16 —シェケルは約10グラム、あるいは約0.35オンスである。六百シェケルは

<sup>§</sup> 10:17 10:17 —ミナは約600グラム、または1.3ポンドである。

21 ソロモン王の飲むための器はすべて金であり、レバノンの森の家の器もすべて純金であった。銀のものは一つもなかった。ソロモンの時代には、銀は全く価値のないものとみなされていたからである。

22 王は海に、ヒラムの船団とともにタルシシュの船団を持っていたからである。三年ごとに一度、タルシシュの船団は金、銀、象牙、猿、くじやくを運んで来た。

23 こうしてソロモン王は、富においても知恵においても、地上のすべての王たちに勝っていた。

24 全地は、神が彼の心に授けられた知恵を聞くために、ソロモンに謁見を求めた。

25 彼らは皆、年ごとに定められた分として、それぞれ自分の貢ぎ物、すなわち銀の器、金の器、衣服、武具、香料、馬、騾馬を持って来た。

26 ソロモンは戦車と騎兵を集めた。彼は千四百の戦車と、一万二千の騎兵を持っており、それらを戦車のための町々に、またエルサレムの王のもとに配置した。

27 王はエルサレムで銀を石のようにし、杉の木を低地にあるいちじく桑の木のように豊富にした。

28 ソロモンが持っていた馬はエジプトから運ばれたものであり、王の商人たちが群れごとに、それぞれ定価で買い取った。

29 エジプトから輸入される戦車は一台につき銀六百シエケル、馬は一頭につき百五十シエケルであった。このようにして、ヘテ人のすべての王たち、およびアラムの王たちのためにも、王の商人たちの手によって輸出された。

## 11

1 さて、ソロモン王はファラオの娘とともに、モ

アブ人、アンモン人、エドム人、シドン人、ヘテ人の多くの外国の女たちを愛した。

<sup>2</sup>これらの国々について、主はかつてイスラエルの子らに、「あなたがたは彼らの中に入って行ってはならない。彼らもあなたがたの中に入って来てはならない。彼らは必ずあなたがたの心を自分たちの神々に従わせるようにそらすからである」と言われていたが、ソロモンは彼女たちを愛して固く結びついた。

<sup>3</sup>彼には妻である七百人の王女と、三百人のそばめがいた。そして彼の妻たちは彼の心をそらした。

<sup>4</sup>ソロモンが年老いたとき、彼の妻たちが彼の心をそらして他の神々に従わせた。そのため、彼の心は父ダビデの心のように、彼の神、主に対して全きものではなかった。

<sup>5</sup>ソロモンはシドン人の女神アシュトレテと、アンモン人の忌むべきものミルコムに従って行った。

<sup>6</sup>ソロモンは主の御目に悪であることを行い、父ダビデのように完全に主に従って行かなかった。

<sup>7</sup>その時、ソロモンはエルサレムの前にある山に、モアブの忌むべきものケモシュのため、そしてアンモンの子らの忌むべきものモレクのために高き所を建てた。

<sup>8</sup>彼は自分たちの神々に香をたき、いけにえをささげるすべての外国の妻たちのためにも、そのように行った。

<sup>9</sup>主はソロモンに向かって怒られた。彼の心が、二度も彼に現れられたイスラエルの神、主からそらされたからである。

<sup>10</sup>主はこの事について、他の神々に従って行ってはならないと彼に命じられていたが、彼は主が命じられたことを守らなかった。

11 それゆえ、主はソロモンに言われた。「あなたがこのように行い、わたしがあなたに命じたわたしの契約とわたしの定めを守らなかったので、わたしは必ずあなたから王国を裂き、それをあなたのしもべに与える。

12 しかし、あなたの父ダビデのゆえに、あなたの生きている間はそれを行わない。あなたの息子の手からそれを裂くのである。

13 とはいえ、王国全体を裂くことはしない。わたしのしもべダビデのゆえに、またわたしが選んだエルサレムのゆえに、一つの部族をあなたの息子に与える。」

14 主はソロモンに対して敵を起こされた。エドム人ハダドである。彼はエドムにいる王の子孫であった。

15 ダビデがエドムにいたときのことである。軍の長ヨアブが、殺された者たちを葬るために上って行き、エドムのすべての男子を打ち殺した。

16 (ヨアブと全イスラエルは、エドムのすべての男子を断ち切るまで、そこに六か月間とどまっていたからである)。

17 ハダドはまだ幼い子どもであったが、彼の父のしもべたちである何人かのエドム人とともに逃げ、エジプトへ行こうとした。

18 彼らはミディアンから旅立ってパランに来た。彼らはパランから男たちを連れてエジプトへ行き、エジプトの王ファラオのところへ来た。ファラオは彼に家を与え、食物をあてがい、土地を与えた。

19 ハダドはファラオの御目に大いに恵みを得たので、ファラオは自分の妻の姉妹、すなわち王妃タフペネスの姉妹を彼の妻として与えた。

20 タフペネスの姉妹は彼に息子ゲヌバテ

を産み、タフペネスはファラオの家で彼を乳離れさせた。ゲヌバテはファラオの家でファラオの息子たちの中にいた。

21 ハダドはエジプトで、ダビデが父祖たちとともに眠りにつき、軍の長ヨアブが死んだことを聞くと、ファラオに「わたしを去らせて、自分の国へ行かせてください」と言った。

22 するとファラオは彼に、「見よ、あなたは自分の国へ行こうとしているが、わたしのもとで何が不足しているのか」と言った。彼は答えた。「何ともありません。しかし、ただわたしを去らせてください。」

23 神は彼に対しても、もう一人の敵、エリアダの息子レズンを起こされた。彼はその主君であるツォバの王ハダデゼルから逃げてきた者であった。

24 ダビデがツォバの者たちを殺したとき、彼は自分のところに男たちを集め、部隊の長となった。彼らはダマスコへ行ってそこに住み、ダマスコで治めた。

25 彼はソロモンの生涯の間、ハダドのわざわいに加えてイスラエルの敵であった。彼はイスラエルを忌み嫌い、アラムを治めた。

26 ツェレダ出身のエフライム人でソロモンのしもべである、ネバテの息子ヤロブアムも王に対して手を上げた。彼の母の名はツェルアといい、やもめであった。

27 彼が王に対して手を上げた理由はこれである。ソロモンはミロを建て、父ダビデの町の破れを修復していた。

28 このヤロブアムという男は有能な勇士であった。ソロモンはこの若者が勤勉であるのを見て、彼をヨセフの家のすべての労働の監督に任じた。

29 そのころ、ヤロブアムがエルサレムから出て行ったとき、シロ人である預言者アヒヤが道で彼に出会った。アヒヤは新しい外套を身にまとい、野には二人だけであった。

30 アヒヤは自分が着ていた新しい外套をつかみ、それを十二切れに引き裂いた。

31 彼はヤロブアムに言った。「あなたは十切れを取りなさい。イスラエルの神、主はこう言われるからである。『見よ、わたしはソロモンの手から王国を裂き、十部族をあなたに与える。』

32 (しかし、わたしのしもベダビデのゆえに、またわたしがイスラエルのすべての部族の中から選んだ町エルサレムのゆえに、彼には一つの部族が残る)。

33 これは彼らがわたしを捨て、シドン人の女神アシュトレテ、モアブの神ケモシュ、アンモンの子らの神ミルコムを拝んだからである。彼らは父ダビデがしたように、わたしの道を歩んでわたしの目に正しいことを行わず、わたしの定めとわたしの掟を守らなかった。

34 しかし、わたしは彼の手から王国全体を取り上げることはしない。わたしが選び、わたしの戒めとわたしの定めを守ったわたしのしもベダビデのゆえに、彼が生きている間は彼を君主とする。

35 しかし、わたしは彼の息子の手から王国を取り上げ、それをあなたに、すなわち十部族を与える。

36 彼の息子には一つの部族を与える。それは、わたしの名を置くためにわたしが選んだ町エルサレムにおいて、わたしのしもベダビデのともしびがわたしの前にいつまでもあるためである。

37 わたしはあなたを取る。あなたは自

分の魂が望むすべてのことにしたがって治め、イスラエルの上の王となる。

<sup>38</sup>もしわたしがあなたに命じるすべてのことにあなたが聞き従い、わたしの道を歩み、わたしのしもべダビデがしたようにわたしの定めとわたしの戒めを守ってわたしの目に正しいことを行うなら、わたしはあなたとともにおり、ダビデのために建てたようにあなたのために確かな家を建て、イスラエルをあなたに与える。

<sup>39</sup>わたしはこの事のためにダビデの子孫を苦しめるが、とこしえにではない。』』

<sup>40</sup>それゆえソロモンはヤロブアムを殺そうと求めたが、ヤロブアムは立ち上がってエジプトへ逃げ、エジプトの王シシャクのところへ行き、ソロモンが死ぬまでエジプトにいた。

<sup>41</sup>ソロモンのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、および彼の知恵は、ソロモンの事績の書に記されているではないか。

<sup>42</sup>ソロモンがエルサレムで全イスラエルを治めた期間は四十年であった。

<sup>43</sup>ソロモンは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に葬られた。そして彼の息子レハブアムが彼に代わって王となった。

## 12

<sup>1</sup>レハブアムはシケムへ行った。全イスラエルが彼を王とするためにシケムに来ていたからである。

<sup>2</sup>ネバテの息子ヤロブアムがこれを聞いたとき（彼はソロモン王の前から逃げてまだエジプトにおり、エジプトに住んでいたが、

<sup>3</sup>人々は人を遣わして彼を呼んだ）、ヤロブアムとイスラエルの全会衆はレハブアムのもとに来て、彼に語って言った。

4 「あなたの父はわれわれのくびきを重くしました。ですから今、あなたの父の過酷な奉仕と、彼がわれわれに負わせた重いくびきを軽くしてください。そうすれば、われわれはあなたに仕えます。」

5 彼は彼らに言った。「三日の間去って行き、それからわたしのところに戻って来なさい。」こうして民は去って行った。

6 レハブアム王は、父ソロモンが生きている間に彼の前に立っていた長老たちと協議して、「この民にどう答えるべきか、あなたがたはどのように助言するのか」と言った。

7 彼らは彼に語って言った。「もしあなたが今日この民のしもべとなり、彼らに仕え、彼らに答えて良い言葉を語るなら、彼らはとこしえにあなたのしもべとなるでしょう。」

8 しかし、彼は長老たちが与えた助言を退け、彼とともに育ち、彼の前に立っている若者たちと協議した。

9 彼は彼らに言った。「『あなたの父がわれわれに負わせたくびきを軽くしてくれ』とわたしに語ったこの民に答えるために、あなたがたはどのような助言を与えるのか。」

10 彼とともに育った若者たちは彼に語って言った。「『あなたの父はわれわれのくびきを重くしたが、あなたはわれわれのためにそれを軽くしてくれ』とあなたに語ったこの民には、このように言うべきです。あなたは彼らにこう言いなさい。『わたしの小指は、わたしの父の腰よりも太い。』

11 今、わたしの父はあなたがたに重いくびきを負わせたが、わたしはあなたがたのくびきをさらに重くする。わたしの父は鞭であなたがたを懲らしめたが、わたしはさそりであなたがたを懲らしめる。』」

12 王が「三日目にわたしのところに戻って来なさい」と命じたとおりに、ヤロブアムとすべての民は三日目にレハブアムのところに来た。

13 王は長老たちが与えた助言を退け、民に荒々しく答えた。

14 若者たちの助言にしたがって彼らに語って言った。「わたしの父はあなたがたのくびきを重くしたが、わたしはあなたがたのくびきをさらに重くする。わたしの父は鞭であなたがたを懲らしめたが、わたしはさそりでああなたがたを懲らしめる。」

15 こうして王は民の言葉に耳を傾けなかった。主がシロ人アヒヤを通してネバテの息子ヤロブアムに語られた言葉を確立されるために、これは主から出た事であったからである。

16 全イスラエルは、王が自分たちの言葉に耳を傾けなかったのを見た。民は王に答えて言った。「われわれはダビデの中に何の分け前を持っているだろうか。エッサイの息子の中に何のゆずりの地も持っていない。イスラエルよ、あなたの天幕へ帰れ！ダビデよ、今、自分の家を見よ。」こうしてイスラエルは自分たちの天幕へ去って行った。

17 しかし、ユダの町々に住んでいたイスラエルの子らについて言えば、レハブアムが彼らを治めた。

18 レハブアム王は強制労働に服する者たちの長であるアドラムを遣わしたが、全イスラエルは彼を石で打ったので、彼は死んだ。レハブアム王は急いで戦車に乗り、エルサレムへ逃げた。

19 こうしてイスラエルはダビデの家に背き、今日に至っている。

20 全イスラエルはヤロブアムが帰って来たことを聞き、人を遣わして彼を会衆に呼び寄せ、

彼を全イスラエルの上の王とした。ユダの部族のほかには、ダビデの家に従う者はなかった。

21 レハブアムがエルサレムに着いたとき、彼はユダの全家とベニヤミンの部族の、選り抜きの戦士十八万人を集めた。ソロモンの息子レハブアムに王国を回復するために、イスラエルの家と戦うためであった。

22 しかし、神の言葉が神の人シェマヤに臨んで言った。

23 「ユダの王、ソロモンの息子レハブアム、およびユダとベニヤミンの全家、また残りの民に語って言え。

24 『主はこう言われる。「上って行ってはならない。あなたがたの兄弟であるイスラエルの子らと戦ってはならない。それぞれ自分の家へ帰れ。この事はわたしによるものだからである。」』」そこで彼らは主の言葉に聞き従い、主の言葉にしたがって帰って行った。

25 それからヤロブアムはエフライムの山地にシケムを建ててそこに住んだ。彼はそこから出て行き、ペヌエルを建てた。

26 ヤロブアムは心の中で言った。「今、王国はダビデの家に帰るかもしれない。

27 もしこの民がエルサレムにある主の家でいけにえをささげるために上って行くなら、この民の心は彼らの主君、ユダの王レハブアムに再び向くであろう。彼らはわたしを殺し、ユダの王レハブアムのところに帰るであろう。」

28 そこで王は協議し、金の二頭の子牛を造って、彼らに言った。「あなたがたがエルサレムに上って行くのはもう十分だ。イスラエルよ、見よ、あなたがたをエジプトの地から導き上ったあなたがたの神々を。」

29 彼は一頭をベテルに置き、もう一頭をダンに置いた。

30 この事は罪となった。民がその一頭を礼拝するために、遠くダンまで行ったからである。

31 彼は高き所に家々を造り、レビの子らではない、すべての民の中から祭司を任命した。

32 ヤロブアムは、第八の月の十五日に、ユダでの祭りのような祭りを定め、祭壇に上った。彼はベテルでそのように行い、自分が造った子牛にいけにえをささげ、自分が造った高き所の祭司たちをベテルに置いた。

33 彼は、第八の月の十五日、彼が自分自身の心で考え出した月に、彼がベテルで造った祭壇に上った。彼はイスラエルの子らのために祭りを定め、香をたくために祭壇に上った。

## 13

1 見よ、ヤロブアムが香をたくために祭壇のそばに立っていたとき、神の人が主の言葉によってユダからベテルにやって来た。

2 彼は祭壇に向かって主の言葉によって叫んで言った。「祭壇よ、祭壇よ、主はこう言われる。『見よ、ダビデの家にヨシヤという名の子が生まれる。彼はあなたの上で香をたく高き所の祭司たちをあなたの上でいけにえとし、人の骨があなたの上で焼かれる。』」

3 彼はその日、一つのしるしを与えて言った。「これは主が語られたしるしである。見よ、祭壇は裂け、その上の灰は注ぎ出される。」

4 ヤロブアム王は、神の人がベテルにある祭壇に向かって叫んだ言葉を聞いたとき、祭壇から手を伸ばして、「彼を捕らえよ！」と言った。

彼に向かって伸ばした彼の手は干からびて、彼はそれを自分のほうへ引き戻すことができなかった。

**5** 神の人が主の言葉によって与えたるしにしたがって、祭壇は裂け、灰は祭壇から注ぎ出された。

**6** 王は答えて神の人に言った。「どうか、あなたの神、主の恵みを求め、わたしの手が再び元通りになるように、わたしのために祈ってくれ。」  
神の人が主に恵みを求めると、王の手は元通りになり、以前のようになった。

**7** 王は神の人に言った。「わたしと一緒に家に来て、休んで力をつけてくれ。そうすれば、わたしはあなたに贈り物を与えよう。」

**8** 神の人は王に言った。「たとえあなたがあなたの家の半分をわたしに与えても、わたしはあなたと一緒にには行きません。わたしはこの場所でパンを食べず、水を飲むこともしません。

**9** 『パンを食べず、水を飲まず、来た道を帰ってはならない』と、主の言葉によってわたしに命じられたからです。」

**10** そこで彼は別の道から行き、ベテルに来た道を帰らなかった。

**11** さて、ベテルには一人の年老いた預言者が住んでいた。その息子たちの一人が来て、神の人がその日ベテルで行ったすべてのことを彼に告げた。神の人が王に語った言葉も、彼らは父に告げた。

**12** 彼らの父は彼らに言った。「彼はどの道を行ってしまったのか。」彼の息子たちは、ユダから来た神の人が行った道を見ていたからである。

**13** 彼は息子たちに言った。「わたしのためにろばに鞍を置いてくれ。」彼らが彼のためにろばに鞍を置くと、彼はそれに乗り、

**14** 神の人の後を追って行き、  
彼が榿の木の下に座っているのを見つけた。

彼は彼に言った。「あなたがユダから来た神の人ですか。」

彼は「わたしです」と言った。

15 そこで彼は彼に言った。「わたしと一緒に家に来て、パンを食べてください。」

16 彼は言った。「わたしはあなたとともに引き返し、あなたと一緒に行くことはできません。またわたしはこの場所であなたとともにパンを食べず、水を飲むこともしません。

17 主の言葉によってわたしに言われたからです。『あなたはそこでパンを食べず、水を飲んではいけません。来た道を引き返してはいけません。』」

18 彼は言った。「わたしもあなたと同じ預言者です。そして御使いが主の言葉によってわたしに語り、『彼をあなたの家に連れ帰り、パンを食べ、水を飲ませよ』と言いました。」しかし、彼はその人に嘘をついていた。

19 そこで彼は彼とともに引き返し、彼の家でパンを食べ、水を飲んだ。

20 彼らが食卓に座っていたとき、彼を連れ帰った預言者に主の言葉が臨んだ。

21 彼はユダから来た神の人に向かって叫んで言った。「主はこう言われる。『あなたは主の口の言葉に背き、あなたの神、主があなたに命じられた戒めを守らず、

22 引き返して、「パンを食べず、水を飲んではいけません」と彼があなたに言われた場所でパンを食べ、水を飲んだので、あなたの死体はあなたの父祖たちの墓に入らない。』」

23 彼がパンを食べ、水を飲んだ後、彼を連れ帰った預言者は、その人のためにろばに鞍を置いた。

24 彼は去って行ったが、道で一頭の獅子に出くわし、殺された。彼の死体は道に投げ捨てられ、ろば

はそのそばに立っており、獅子も死体のそばに立っていた。

25 見よ、人々が通りかかり、道に投げ捨てられた死体と、死体のそばに立っている獅子を見た。彼らは来て、年老いた預言者が住んでいる町でそれを告げた。

26 彼を道から連れ帰った預言者がそれを聞いたとき、彼は言った。「それは、主の口の言葉に背いたあの神の人だ。それゆえ、主は彼を獅子に引き渡され、主が彼に語られた言葉のとおり、獅子は彼を引き裂き、殺したのだ。」

27 彼は息子たちに語って、「わたしのためにろばに鞍を置いてくれ」と言った。彼らは鞍を置いた。

28 彼は行って、その死体が道に投げ捨てられ、ろばと獅子が死体のそばに立っているのを見つけた。獅子は死体を食わず、ろばを引き裂いてはいなかった。

29 預言者は神の人の死体を取り上げ、それをろばに載せて持ち帰った。年老いた預言者は彼のために泣き悲しみ、彼を葬るために町に来た。

30 彼はその死体を自分の墓に納めた。人々は彼のために、「ああ、わたしの兄弟よ!」と言って泣き悲しんだ。

31 彼を葬った後、彼は息子たちに語って言った。「わたしが死んだら、神の人が葬られた墓にわたしを葬り、わたしの骨を彼の骨のそばに置いてくれ。」

32 彼が主の言葉によって、ベテルにある祭壇に向かって、またサマリアの町々にある高き所のすべての家々に向かって叫んだ言葉は、必ず成就するからだ。」

33 この事の後にも、ヤロブアムはその悪い道から立ち返らず、再びすべての民の中から高き所の祭司たちを任命した。彼はだれでも望む者を聖

別し、その者が高き所の祭司たちの一人となるようにした。

<sup>34</sup>この事はヤロブアムの家にとって罪となり、それを地の面から絶ち、滅ぼすことになった。

## 14

<sup>1</sup>そのころ、ヤロブアムの息子アヒヤが病気になるた。

<sup>2</sup>ヤロブアムは妻に言った。「起きて変装し、ヤロブアムの妻だと知られないようにして、シロへ行きなさい。見よ、そこには預言者アヒヤがいる。彼は、わたしがこの民の王になると語った者だ。

<sup>3</sup>パン十個と、菓子と、はちみつの入った壺を手にとって、彼のところに行きなさい。彼はこの子どもに何が起こるかをあなたに告げるだろう。」

<sup>4</sup>ヤロブアムの妻はそのようにして、立ち上がってシロへ行き、アヒヤの家に来た。さてアヒヤは、年老いて目がかすんでいたため、見ることはできなかった。

<sup>5</sup>主はアヒヤに言われた。「見よ、ヤロブアムの妻が、自分の息子についてあなたに尋ねるためにやって来る。彼は病気だからである。あなたは彼女にこれこれこのように言いなさい。彼女は入って来るとき、別の女のふりをするからである。」

<sup>6</sup>彼女が戸口から入る足音をアヒヤが聞いたとき、彼は言った。「入りなさい、ヤロブアムの妻よ。なぜ別の女のふりをするのか。わたしは厳しい知らせを持ってあなたに遣わされた。

<sup>7</sup>行って、ヤロブアムに告げよ。『イスラエルの神、主はこう言われる。「わたしはあなたを民の中から引き上げ、わたしの民イスラエルの上の君主とした。

8 わたしはダビデの家から王国を裂いてあなたに与えたが、あなたは、わたしの戒めを守り、心を尽くしてわたしに従い、わたしの目に正しいことだけを行ってわたしのしもべダビデのようではなかった。

9 あなたは自分よりも前にいたすべての者よりも悪いことを行った。あなたは自分のために他の神々や鑄造の像を造って、わたしを怒らせ、わたしをあなたの背後に投げ捨てた。

10 それゆえ、見よ、わたしはヤロブアムの家にわざわいをもたらし、ヤロブアムから、イスラエルで壁に放尿する者\*をすべて断ち切る。奴隷であれ自由の身であれ断ち切る。糞が片づけられるように、すべてなくなるまでヤロブアムの家を完全に一掃する。

11 ヤロブアムに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、野で死ぬ者は空の鳥が食う。主がそう語られたからである。』』

12 だから、起きて自分の家へ帰りなさい。あなたの足が町に入るとき、その子は死ぬ。

13 全イスラエルは彼のために泣き悲しみ、彼を葬る。ヤロブアムの家の中で彼だけが墓に入る。ヤロブアムの家の中で、イスラエルの神、主に向けて何か良いものが彼の中に見いだされたからである。

14 さらに、主はご自身のためにイスラエルを治める王を起こされる。その王は、その日にヤロブアムの家を断ち切る。いや、今すでに!

15 主は水の中で葦が揺れるようにイスラエルを打ち、主が彼らの父祖たちに与えられたこの良い地からイスラエルを根こぎにし、彼らを川†

\* 14:10 14:10 または、男子

† 14:15 14:15

すなわち、ユーフラテス川。

の向こうに散らされる。彼らがアシェラ像を造って主を怒らせたからである。

16 彼はヤロブアムが犯した罪、またイスラエルに犯させた罪のゆえにイスラエルを引き渡される。」

17 ヤロブアムの妻は立ち上がって去り、ティルツァに来た。彼女が家の敷居をまたぐと、子どもは死んだ。

18 全イスラエルは、主がそのしもべである預言者アヒヤを通して語られた言葉のとおり、彼を葬り、彼のために泣き悲しんだ。

19 ヤロブアムのその他の事績、彼がどのように戦い、どのように治めたかは、見よ、イスラエルの王たちの年代記の書に記されている。

20 ヤロブアムが治めた日数は二十二年であった。彼は父祖たちとともに眠りにつき、その息子ナダブが彼に代わって王となった。

21 ソロモンの息子レハブアムはユダで王であった。レハブアムは王になり始めたとき四十一歳で、主がご自分の御名を置くためにイスラエルのすべての部族の中から選ばれた町エルサレムで、十七年間統治した。彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。

22 ユダは主の御目に悪であることを行い、彼らが犯した罪によって、父祖たちがしたすべてのこと以上に、主をねたませた。

23 彼らもまた、すべての高い丘の上と、すべての青々とした木の下に、自分たちのために高き所、石の柱、アシェラ像を建てたからである。

24 また、その地には神殿男娼もいた。人々は、主がイスラエルの子らの前から追い払われた国々の忌むべきことのすべてにしたがって行った。

25 レハブアム王の第五年に、エジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上って来た。

26 彼は主の家の財宝と、王の家の財宝を奪い去った。彼はすべてを奪い去り、ソロモンが造った金の盾もすべて奪い去った。

27 レハブアム王はその代わりに青銅の盾を造り、王の家の戸口を守る護衛兵の長たちの手に委ねた。

28 王が主の家へ行くたびに、護衛兵がそれらを持ち、その後、彼らはそれらを護衛兵の部屋に戻した。

29 レハブアムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

30 レハブアムとヤロブアムの間には常に戦いがあった。

31 レハブアムは父祖たちとともに眠りにつき、ダビデの町で父祖たちとともに葬られた。

彼の母の名はナアマといい、アンモン人であった。その息子アビヤムが彼に代わって王となった。

## 15

1 ネバテの息子ヤロブアム王の第十八年に、アビヤムはユダを治め始めた。

2 彼はエルサレムで三年間統治した。彼の母の名はマアカといい、アビシャロムの娘であった。

3 彼は自分の前に父が行ったすべての罪の中を歩んだ。彼の心は、彼の父ダビデの心のように、彼の神、主に対して全きものではなかった。

4 それにもかかわらず、ダビデのゆえに、彼の神、主はエルサレムで彼にともしびを与え、彼の後にその息子を立ててエルサレムを確立された。

5 ダビデは主の御目に正しいことを行い、その生涯のすべての日々において、ヘテ人ウリヤの事のほかは、主が彼に命じられたすべてのことから逸れなかったからである。

6 レハブアムとヤロブアムの間には、彼の生涯のすべての日々において戦いがあった。

7 アビヤムのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。アビヤムとヤロブアムの間には戦いがあった。

8 アビヤムは父祖たちとともに眠りにつき、彼らは彼をダビデの町に葬った。そしてその息子アサが彼に代わって王となった。

9 イスラエルの王ヤロブアムの第二十年に、アサはユダを治め始めた。

10 彼はエルサレムで四十一年間統治した。彼の母の名はマアカといい、アビシャロムの娘であった。

11 アサは、彼の父ダビデが行ったように、主の御目に正しいことを行なった。

12 彼はその地から神殿男娼を取り除き、父祖たちが造ったすべての偶像を取り除いた。

13 彼はまた、彼の母マアカがアシェラのために忌むべき像を造ったので、彼女を王母の位から退けた。アサは彼女の像を切り倒し、キデロンキデロンの川でそれを焼いた。

14 しかし高き所は取り除かれなかった。それにもかかわらず、アサの心はその生涯の間、主に対して全きものであった。

15 彼は彼の父が聖別したものと、彼自身が聖別したものの、すなわち銀、金、器を主の家に運び入れた。

16 アサとイスラエルの王バシャの間には、彼の日々のすべてにおいて戦いがあった。

17 イスラエルの王バシヤはユダに攻め上り、ユダの王アサのもとへ誰も出入りできないようにラマを建てた。

18 そこでアサは、主の家の宝物庫と王の家の宝物庫に残されていたすべての銀と金を取り、それらを自分のしもべたちの手に委ねた。そしてアサ王は彼らを、ダマスコに住むアラムの王、ヘジオンの息子タブリモンの息子ベン・ハダドに遣わして言った。

19 「わたしとあなた、わたしの父とあなたの父の間には契約があります。見よ、わたしはあなたに銀と金の贈り物をお送りします。行って、イスラエルの王バシヤとの契約を破棄してください。彼がわたしから去って行くためです。」

20 ベン・ハダドはアサ王に聞き従い、自分の軍の長たちをイスラエルの町々に遣わした。彼らはイヨン、ダン、アベル・ベテ・マアカ、およびナフタリの全地とともにキネロテのすべてを打った。

21 バシヤはそれを聞くと、ラマを建ててのをやめて、ティルツアに住んだ。

22 そこでアサ王は全ユダに布告を出した。免除される者は誰もいなかった。彼らはバシヤが建てていたラマの石と木材を運び去り、アサ王はそれらでベニヤミンのゲバとミツパを建てた。

23 アサのその他のすべての事績、彼のすべての力、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた町々は、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。しかし彼は年老いたとき、足に病気を持った。

24 アサは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に父祖たちとともに葬られた。そしてその息子ヨシャファテが彼に代わって王となった。

25 ユダの王アサの第二年に、ヤロブアムの息子ナダブがイスラエルを治め始めた。彼は二年間イスラエルを治めた。

26 彼は主の御目に悪であることを行い、彼の父の道と、イスラエルに罪を犯させた彼の罪の中を歩んだ。

27 イッサカルの家の、アヒヤの息子バシヤは彼に対して陰謀を企てた。ナダブと全イスラエルはギベトンを包囲していたので、バシヤはペリシテ人に属するギベトンで彼を打った。

28 ユダの王アサの第三年に、バシヤは彼を殺し、彼に代わって王となった。

29 彼が王となるやいなや、彼はヤロブアムの全家を打った。主がそのしもべであるシロ人アヒヤを通して語られた言葉のとおり、彼はヤロブアムに息のある者を一人も残さず、ついに彼を滅ぼした。

30 これはヤロブアムが犯した罪と、彼がイスラエルに犯させた罪のためであり、彼がイスラエルの神、主を怒らせたその挑発のためであった。

31 ナダブのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているのではないか。

32 アサとイスラエルの王バシヤの間には、彼らの日々のすべてにおいて戦いがあった。

33 ユダの王アサの第三年に、アヒヤの息子バシヤはティルツアで全イスラエルを治め始め、二十四年間統治した。

34 彼は主の御目に悪であることを行い、ヤロブアムの道と、彼がイスラエルに罪を犯させた彼の罪の中を歩んだ。

# 16

1 主の言葉がハナニの息子イエフに、バシヤに対して臨んで言った。

2 「わたしはあなたをちりの中から引き上げ、わたしの民イスラエルの上の君主としたが、あなたはヤロブアムの道を歩み、わたしの民イスラエルに罪を犯させ、彼らの罪によってわたしを怒らせた。

3 見よ、わたしはバシヤとその家を完全に一掃し、あなたの家をネバテの息子ヤロブアムの家のようにする。

4 バシヤに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、野で死ぬ者は空の鳥が食う。」

5 バシヤのその他の事績、彼が行ったこと、および彼の力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

6 バシヤは父祖たちとともに眠りにつき、ティルツァに葬られた。そしてその息子エラが彼に代わって王となった。

7 さらに、預言者ハナニの息子イエフを通して、主の言葉がバシヤとその家に対して臨んだ。それは、彼がヤロブアムの家のようになり、自分の手のわざによって主を怒らせた、主の御目でのすべての悪のためであり、また彼がその家を打ったためであった。

8 ユダの王アサの第二十六年に、バシヤの息子エラがティルツァでイスラエルを治め始め、二年間統治した。

9 彼の戦車の半分の長である、彼のしもベジムリは彼に対して陰謀を企てた。さて、エラはティルツァにおり、ティルツァの家を管理するアルツァの家で飲んで酔っていた。

10 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリは入って来て彼を打ち殺し、彼に代わって王となった。

11 彼が治め始め、その王座に座るやいなや、彼はバシヤの全家を打った。彼は壁に放尿する者\*を一人も残さず、親族も友人も残さなかった。

12 このようにして、主が預言者イエフを通してバシヤに対して語られた言葉のとおり、ジムリはバシヤの全家を滅ぼした。

13 これはバシヤのすべての罪と、その息子エラの罪のためであり、彼らが罪を犯し、彼らがイスラエルに罪を犯させ、彼らのむなしい偶像によってイスラエルの神、主を怒らせたためであった。

14 エラのその他の事績と、彼が行ったすべてのことは、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

15 ユダの王アサの第二十七年に、ジムリはティルツァで七日間統治した。さて、民はペリシテ人に属するギベトンに対して陣を敷いていた。

16 陣を敷いていた民は、「ジムリが陰謀を企て、また王を打った」ということを聞いた。それゆえ、全イスラエルはその日、陣営の中で軍の長オムリをイスラエルの上の王とした。

17 オムリと彼とともにいた全イスラエルはギベトンから上って行き、ティルツァを包囲した。

18 ジムリは町が攻め取られたのを見ると、王の家の城郭に入り、自分ごと王の家を火で焼いて死んだ。

19 これは、彼が主の御目に悪であることを行い、ヤロブアムの道を歩み、彼が行った罪によってイスラエルに罪を犯させた、彼の罪のためであった。

---

\* 16:11 16:11 または、男子

20 ジムリのその他の事績と、彼が企てた反逆は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

21 その時、イスラエルの民は二つに分かれた。民の半分はギナテの息子ティブニに従って彼を王としようとし、半分はオムリに従った。

22 しかし、オムリに従った民は、ギナテの息子ティブニに従った民に打ち勝った。こうしてティブニは死に、オムリが王となった。

23 ユダの王アサの第三十一年に、オムリはイスラエルを治め始め、十二年間統治した。彼はティルツァで六年間治めた。

24 彼はシェメルからサマリアの丘を銀二タラント<sup>†</sup>で買い取った。彼はその丘の上に町を建て、丘の所有者シェメルの名にちなんで、その建てた町の名をサマリアと呼んだ。

25 オムリは主の御目に悪であることを行い、彼より前にいたすべての者よりも悪を行って彼らをしのいだ。

26 彼はネバテの息子ヤロブアムのすべての道と、彼がイスラエルに罪を犯させた彼の罪の中を歩み、彼らのむなしい偶像によってイスラエルの神、主を怒らせたからである。

27 オムリが行ったその他の事績と、彼が示した力は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

28 オムリは父祖たちとともに眠りにつき、サマリアに葬られた。そしてその息子アハブが彼に代わって王となった。

29 ユダの王アサの第三十八年に、オムリの息子アハブがイスラエルを治め始めた。オムリの息子アハブはサマリアで二十二年間イスラエルを治めた。

<sup>†</sup> 16:24 16:24 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

30 オムリの息子アハブは、彼より前にいたすべての者よりも主の御目に悪であることを行って彼らをしのいだ。

31 彼にとってネバテの息子ヤロブアムの罪の中を歩むことが軽いことであるかのように、彼はシドン人の王エトバルの娘イゼベルを妻としてめとり、行ってバルに仕え、彼を拜んだ。

32 彼はサマリアに建てたバルの家の中に、バルのための祭壇を築いた。

33 アハブはアシェラ像を造った。アハブは、彼より前にいたイスラエルのすべての王たちにも増して、イスラエルの神、主を怒らせることを行った。

34 彼の時代に、ベテル人ヒエルがエリコを建てた。彼は長子アピラムを失ってその基を据え、末の子セグブを失ってその門を立てた。これは主がヌンの子ヨシュアを通して語られた言葉のとおりであった。

## 17

1 ギレアデに住むティシュベ人エリヤはアハブに言った。「わたしがその御前に立っているイスラエルの神、主は生きておられる。わたしの言葉によらなければ、これからの数年間、露も雨も降らないであろう。」

2 主の言葉が彼に臨んで言った。

3 「ここから去り、東へ向かい、ヨルダンの前にあるケリテの川のそばに身を隠しなさい。

4 あなたはその川から飲むであろう。わたしはからすたちに、そこであなたを養うように命じた。」

5 そこで彼は行って、主の言葉にしたがった。彼はヨルダンの前にあるケリテの川のそばに行って住んだ。

6 からすたちが朝にパンと肉を彼に運び、夕にもパンと肉を運び、彼は川から飲んだ。

7 その地に雨が降らなかったため、しばらくしてその川は干上がった。

8 主の言葉が彼に臨んで言った。

9 「起きて、シドンに属するツアレファテへ行き、そこにとどまりなさい。見よ、わたしはこの一人のやもめに命じて、あなたを養うようにした。」

10 そこで彼は起きてツアレファテへ行った。彼が町の門に来ると、見よ、一人のやもめがそこで薪を拾い集めていた。彼は彼女を呼んで言った。「どうか、わたしが飲めるように、水差しに少し水を持ってきてください。」

11 彼女がそれを取りに行こうとすると、彼は彼女を呼んで言った。「どうか、あなたの手に一片のパンを持ってきてください。」

12 彼女は言った。「あなたの神、主は生きておられます。わたしには焼いたパンはなく、かめの中に一握りの粉と、壺の中に少しの油があるだけです。見よ、わたしは二本の薪を拾い集め、家に入って、わたしと息子のためにそれを調理しようとしています。それを食べて、死ぬためです。」

13 エリヤは彼女に言った。「恐れることはない。行って、あなたの言ったとおりにしなさい。しかし、まずその粉でわたしのために小さなパンを作り、それをわたしのところに持ってきなさい。その後で、あなたとあなたの息子のために作りなさい。

14 イスラエルの神、主はこう言われるからである。『主が地の面に雨を降らせる日まで、かめの粉は尽きず、壺の油はなくなる。』

15 彼女は行って、エリヤの言葉のとおりにした。彼女とエリヤと彼女の家族は、幾日も食べた。

16 主がエリヤを通して語られた言葉のとおり  
に、かめの粉は尽きず、壺の油はなくなかなかつ  
た。

17 これらのことの後、その家の女主人であ  
る女の息子が病気になった。その病気は非  
常に重く、彼の中に息が残らなくなった。

18 彼女はエリヤに言った。「神の人よ、わたしは  
あなたと何のかかわりがあるのでしょうか。あなた  
はわたしの罪を思い出させ、わたしの息子を殺すた  
めにわたしのところに来たのですか!」

19 彼は彼女に言った。「あなたの息子をわたし  
に渡しなさい。」彼は彼女のふところから息  
子を受け取り、自分が滞在していた屋上の部  
屋に運び上げ、自分の寝台に寝かせた。

20 彼は主に叫んで言った。「わたし  
の神、主よ。あなたは、わたしが滞在しているこの  
やもめにまで、彼女の息子を殺すというわざわいをも  
たらされたのですか。」

21 彼はその子どもの上に三度身を伸ばし、  
主に叫んで言った。「わたしの神、主よ、どう  
か、この子どもの魂が再び彼の中に戻ってきますよ  
うに。」

22 主はエリヤの声に聞き従われ、子ども  
の魂は再び彼の中に戻り、彼は生き返った。

23 エリヤは子どもを取り、部屋か  
ら家の中へ連れ下りて、彼をその母に引き渡し  
た。そしてエリヤは、「見よ、あなたの息子は生き  
ている」と言った。

24 女はエリヤに言った。「今、わたしはあなた  
が神の人であり、あなたの口にある主の言葉が真  
理であることを知りました。」

## 18

1 多くの日々の後、三年目に、主の言葉がエリヤ

に臨んで言った。「行って、アハブに姿を見せなさい。わたしは地の面に雨を降らせる。」

<sup>2</sup> エリヤはアハブに姿を見せるために行った。

サマリアでは、ききんが激しかった。

<sup>3</sup> アハブは宮廷を管理していたオバデヤを呼んだ（さて、オバデヤは主を大いに恐れていた。

<sup>4</sup> イゼベルが主の預言者たちを断ち切ったとき、オバデヤは百人の預言者たちを取り、彼らを五十人ずつほら穴に隠し、パンと水で彼らを養ったのである）。

<sup>5</sup> アハブはオバデヤに言った。「この地のすべての水の泉と、すべての谷川を巡りなさい。もしかすると草が見つかり、馬と驟馬を生き延びさせ、動物を失わずにすむかもしれない。」

<sup>6</sup> そこで彼らは、巡る地域を二人で分けた。アハブは一人で一つの道を行き、オバデヤは一人でもう一つの道を行った。

<sup>7</sup> オバデヤが道にいたとき、見よ、エリヤが彼に出会った。彼はエリヤだとわかると、地に顔を伏せて言った。「あなたは、わが主君エリヤではありませんか。」

<sup>8</sup> 彼は答えた。「わたしだ。行って、あなたの主君に『見よ、エリヤがここにいる』と告げなさい。」

<sup>9</sup> 彼は言った。「わたしがどんな罪を犯したというので、あなたはあなたのしもべをアハブの手に引き渡して、わたしを殺そうとされるのですか。」

<sup>10</sup> あなたの神、主は生きておられます。わたしの主君があなたを探すために人を遣わさなかった国や王国はありません。彼らが『彼はここにいない』と言うと、彼はその王国や国に、あなたが見つからなかったという誓いを立てさせました。

11 今、あなたは『行って、あなたの主君に「見よ、エリヤがここにいる」と告げよ』と言われます。

12 わたしがあなたから離れるとすぐに、主の霊があなたをわたしの知らない所へ運んで行くでしょう。そしてわたしが来てアハブに告げ、彼があなたを見つけられなければ、彼はわたしを殺すでしょう。しかし、あなたのしもべであるわたしは、若いころから主を恐れてきました。

13 イゼベルが主の預言者たちを殺したとき、わたしがしたこと、すなわち、わたしが主の預言者たちのうち百人の男たちを五十人ずつほら穴に隠し、パンと水で彼らを養ったことが、わが主君に告げられていなかったのでしょうか。

14 今、あなたは『行って、あなたの主君に「見よ、エリヤがここにいる」と告げよ』と言われます。彼はわたしを殺すでしょう。」

15 エリヤは言った。「わたしがその御前に立っている万軍の主は生きておられる。わたしは今日、必ず彼に姿を見せる。」

16 そこでオバデヤはアハブに会いに行き、彼に告げた。アハブはエリヤに会いに行った。

17 アハブはエリヤを見たとき、彼に言った。「それはあなたか。イスラエルを煩わす者よ。」

18 彼は答えた。「わたしがイスラエルを煩わしたのではなく、あなたとあなたの父の家です。あなたがたが主の戒めを捨て、バアルたちに従って行ったからです。」

19 ですから今、人を遣わし、全イスラエルをカルメル山に、わたしのところに集めてください。また、イゼベルの食卓で食べる四百五十人のバアルの預言者たちと、四百人のアシェラの預言者たちもです。」

20 そこでアハブはイスラエルのすべての子らに人を遣わし、預言者たちをカルメル山に集めた。

21 エリヤはすべての民に近づいて言った。「あなたがたはいつまで二つの立場の間で揺れ動いているのか。もし主が神であるなら、彼に従いなさい。しかし、もしバアルであるなら、彼に従いなさい。」

民は彼にひと言も答えなかった。

22 そこでエリヤは民に言った。「わたし、ただわたし一人だけが主の預言者として残された。しかし、バアルの預言者たちは四百五十人いる。

23 だから、われわれに二頭の牛を与えてほしい。彼らに自分のために一頭の牛を選ばせ、それを切り分けて木の上に載せさせよ。しかし、その下に火を置いてはならない。わたしはもう一頭の牛を整えて木の上に載せるが、その下に火を置くことはしない。

24 あなたがたは自分たちの神の名を呼べ。わたしは主の御名を呼ぶ。火をもって答える神、その方を神とせよ。」

すべての民は答えて、「あなたの言うことは良い」と言った。

25 エリヤはバアルの預言者たちに言った。「あなたがたは自分たちのために一頭の牛を選び、まずそれを整えなさい。あなたがたは数が多いからだ。そしてあなたがたの神の名を呼べ。しかし、下に火を置いてはならない。」

26 彼らは自分たちに与えられた牛を取り、それを整え、朝から真昼まで「バアルよ、われわれの声を聞いてください!」と言ってバアルの名を呼んだ。しかし声はなく、答える者もいなかった。彼らは築かれた祭壇の周りを跳ね回った。

27 真昼になると、エリヤは彼らをあざけって言った。「大声で叫べ。彼は神なのだから。彼は思いふ

けているのか、それとも席を外しているのか、それとも旅に出ているのか。もしかすると彼は眠っていて、起こされなければならないのかもしれない。」

28 彼らは大声で叫び、彼らのやり方に従って、彼らの上に血が噴き出すまで短剣と槍で自分たちの体を切り裂いた。

29 昼が過ぎても、彼らは夕暮れのささげ物をささげる時まで預言し続けた。しかし声はなく、答える者もなく、注意を払う者もいなかった。

30 エリヤはすべての民に言った。「わたしのところに近づきなさい。」すべての民は彼に近づいた。彼は打ち壊されていた主の祭壇を修復した。

31 エリヤは、主の言葉が臨んで「あなたの名はイスラエルとなる」と言われたヤコブの息子たちの部族の数にしたがって、十二の石を取った。

32 彼はその石で主の御名によって祭壇を築いた。彼は祭壇の周りに、二セア\*分の種が入るほどの溝を掘った。

33 彼は木を並べ、牛を切り分けて木の上に載せた。彼は言った。「四つの壺に水を満たし、全焼のささげ物と木の上に注げ。」

34 彼は言った。「二度目を行え。」彼らは二度目を行った。彼は言った。「三度目を行え。」彼らは三度目を行った。

35 水は祭壇の周りを流れ、彼は溝にも水を満たした。

36 夕暮れのささげ物をささげる時になって、預言者エリヤは近づいて言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、わたしがあなたのしもべであ

\* 18:32 18:32 一セアは約7リットル、または1.9ガロン、あるいは0.8ペックである。

り、わたしがあなたの言葉によってこれらすべてのことを行ったということが、今日知られますように。

37 わたしに答えてください、主よ、わたしに答えてください。この民が、主よ、あなたが神であり、あなたが彼らの心を再び立ち返らせてくださったことを知るためです。」

38 すると主の火が降って、全焼のささげ物と、木と、石と、ちりを食い尽くし、溝にあった水をなめ尽くした。

39 すべての民はそれを見たとき、地に顔を伏せた。彼らは言った。「主こそ神である！主こそ神である！」

40 エリヤは彼らに言った。「バアルの預言者たちを捕らえよ！彼らを一人も逃がしてはならない！」彼らが彼らを捕らえると、エリヤは彼らをキシオン川に連れ下り、そこで彼らを殺した。

41 エリヤはアハブに言った。「起きて、飲み食いしなさい。激しい雨の音がするからだ。」

42 そこでアハブは飲み食いするために上って行った。エリヤはカルメルの頂に上り、地に身をかがめ、顔をひざの間にうずめた。

43 彼は自分のしもべに言った。「今、上って行き、海の方を見なさい。」

彼は上って行き、見て、言った。「何もありません。」

彼は言った。「もう一度行きなさい。」それを七度繰り返した。

44 七度目に彼は言った。「見よ、人の手のような小さな雲が海から上って来ます。」

彼は言った。「上って行き、アハブに『雨があなたを妨げないように、支度をして下って行きなさい』と告げよ。」

45 しばらくすると、空は雲と風で黒くなり、大雨となった。アハブは戦車に乗ってエズレルへ行った。

46 主の御手がエリヤの上であり、彼は上着を帯に挟み、アハブの前を走ってエズレルの入り口まで行った。

## 19

1 アハブは、エリヤがしたすべてのこと、また彼が預言者たちをみな剣で殺した次第をイゼベルに告げた。

2 するとイゼベルはエリヤに使者を遣わして言った。「もしわたしが明日の今ごろまでに、あなたの命をあの者たちの一人の命のようにしなければ、神々がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように!」

3 彼はそれを見て、自分の命のために立ち上がって逃げ、ユダに属するベエルシェバに来て、そこに自分のしもべを残した。

4 しかし彼自身は荒野へ一日の道のりを行き、一本のえにしだの木の下に来て座った。彼は自分が死ぬことを願い求めて言った。「もう十分です。今、主よ、わたしの命を取ってください。わたしは父祖たちに勝る者ではないからです。」

5 彼はえにしだの木の下に横たわって眠った。すると見よ、御使いが彼に触れて、「起きて食べなさい!」と彼に言った。

6 彼が見ると、見よ、彼の頭のそばには炭火で焼いたパンと、水の壺があった。彼は食べて飲み、再び横たわった。

7 主の御使いが二度目に再び来て、彼に触れて言った。「起きて食べなさい。道のりがあなたには長すぎるからだ。」

8 彼は起きて、飲み食いし、その食べ物の方で四十日四十夜歩いて、神の山ホレブに行った。

9 彼はそこにあるほら穴に来て、そこで泊まった。すると見よ、主の言葉が彼に臨んで、彼に言った。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

10 彼は言った。「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でした。イスラエルの子らはあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を打ち壊し、あなたの預言者たちを剣で殺したからです。わたし、ただわたし一人だけが残り、彼らはわたしの命を取ろうと狙っています。」

11 彼は言った。「外に出て、主の前の山の上に立ちなさい。」

見よ、主が通り過ぎられ、主の前に大いに強い風が山々を裂き、岩を打ち砕いたが、主はその風の中にはおられなかった。風の後に地震があったが、主は地震の中にもおられなかった。

12 地震の後に火があったが、主は火の中にもおられなかった。火の後に、静かな細い声があった。

13 エリヤはそれを聞くと、外套で顔を覆い、外に出て、ほら穴の入り口に立った。見よ、声が彼に臨んで言った。「エリヤよ、ここで何をしているのか。」

14 彼は言った。「わたしは万軍の神、主のために非常に熱心でした。イスラエルの子らはあなたの契約を捨て、あなたの祭壇を打ち壊し、あなたの預言者たちを剣で殺したからです。わたし、ただわたし一人だけが残り、彼らはわたしの命を取ろうと狙っています。」

15 主は彼に言われた。「行って、ダマスコの荒野への道を帰りなさい。あなたが着いたなら、ハザエルに油を注いでアラムの上の王としなさい。」

16 また、ニムシの息子イエフに油を注いでイスラエルの上の王としなさい。そして、アベル・メホラ出身のシャファテの息子エリシャに油を注いで、あなたの代わりに預言者としなさい。

17 ハザエルの剣から逃れる者をイエフが殺し、イエフの剣から逃れる者をエリシャが殺すであろう。

18 しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残した。そのひざは皆バアルにかがまず、その口は皆彼に口づけしなかった。」

19 そこで彼はそこから出発し、十二くびきの牛を前にしてすきを引いている、シャファテの息子エリシャを見つけた。エリシャ自身は十二番目のくびきとともにいた。エリヤは彼のところに渡って行き、自分の外套を彼に投げかけた。

20 彼は牛を置いてエリヤの後に走り、「どうか、わたしの父と母に口づけさせてください。それからあなたに従います」と言った。

彼は彼に言った。「帰りなさい。わたしがあなたに何をしたというのか。」

21 彼はエリヤの後を追うのをやめて戻り、一くびきの牛を取ってほふり、牛の用具でその肉を煮て、それを民に与えた。彼らは食べた。それから彼は立ち上がってエリヤの後に行き、彼に仕えた。

## 20

1 アラムの王ベン・ハダドはその全軍勢を集めた。彼とともに三十二人の王たちがおり、馬と戦車があった。彼は上って行ってサマリアを包囲し、それと戦った。

2 彼は町の中にいるイスラエルの王アハブに使臣たちを遣わし、彼に言った。「ベン・ハダドはこう言う。」

3 『あなたの銀とあなたの金はわたしのものだ。あなたの妻たちとあなたの子らも、その最も良い者はわたしのものだ。』」

4 イスラエルの王は答えた。「わが君、王よ、あなたの言葉のとおりです。わたしも、わたしのすべてのものも、あなたのものです。」

5 使者たちは再び来て言った。「ベン・ハダドはこう言う。『わたしはあなたに人を遣わして、「あなたは自分の銀と金、妻たちと子らをわたしに引き渡さなければならない。」

6 わたしは明日の今ごろ、わたしのしもべたちをあなたのところに遣わす。彼らはあなたの家とあなたのしもべたちの家を捜し、あなたの目に好ましいものは何でも彼らの手に取って持ち去るだろう」と言った。』」

7 そこでイスラエルの王はその地のすべての長老たちを呼んで言った。「どうか、この男がどのようにわざわいを求めているかに気づいてください。彼がわたしの妻たち、わたしの子ら、わたしの銀、わたしの金のために人を遣わしたとき、わたしは彼を拒まなかったからです。」

8 すべての長老たちとすべての民は彼に言った。「耳を傾けてはなりません。承諾してもなりません。」

9 それゆえ、彼はベン・ハダドの使者たちに言った。「わが君、王に告げよ。『あなたが最初にあなたのしもべに求めたことはすべて行いますが、この事は行うことができません。』」使者たちは去って行き、彼に再び言葉を持ち帰った。

10 ベン・ハダドは彼に人を遣わして言った。「もしサマリアのちりが、わたしに従うすべての民の手に満ちるほどあるなら、神々がわたしにそのように行い、さらに増し加えられるように。」

11 イスラエルの王は答えた。「彼に告げよ。『武器を着ける者が、それを脱ぐ者のように誇ってはならない。』」

12 ベン・ハダドは、王たちとともに天幕の中で飲んでいたときにこの知らせを聞くと、自分のしもべたちに「陣を敷け!」と言った。彼らは町に対して陣を敷いた。

13 見よ、一人の預言者がイスラエルの王アハブに近づいて言った。「主はこう言われる。『あなたはこのすべての大群衆を見たか。見よ、わたしは今日、それをあなたの手引き渡す。そうして、あなたはわたしが主であることを知るであろう。』」

14 アハブは言った。「だれによってですか。」  
彼は言った。「主はこう言われる。『諸州の君主たちに仕える若者たちによってである。』」  
それから彼は言った。「だれが戦いを始めるのですか。」

彼は答えた。「あなたです。」

15 そこで彼は諸州の君主たちに仕える若者たちを召集した。彼らは二百三十二人であった。彼らの後で、彼はすべての民、すなわちイスラエルのすべての子らを召集し、それは七千人であった。

16 彼らは真昼に出て行った。しかしベン・ハダドは、彼と王たち、すなわち彼を助ける三十二人の王たちとともに天幕の中で酔いつぶれていた。

17 諸州の君主たちに仕える若者たちが最初に出て行った。ベン・ハダドは人を遣わし、彼らは彼に「男たちがサマリアから出て来ます」と告げた。

18 彼は言った。「もし彼らが平和のために出て来たなら、彼らを生けどりにせよ。もし彼らが戦いのために出て来たとしても、彼らを生けどりにせよ。」

19 こうして彼ら、すなわち諸州の君主たちに仕える若者たちと、彼らに従う軍勢が町から出て行った。

20 彼らはそれぞれ自分に向かってくる者を殺した。アラム人は逃げ、イスラエルは彼らを追った。アラムの王ベン・ハダドは騎兵とともに馬で逃れた。

21 イスラエルの王は出て行き、馬と戦車を打ち、アラム人を大殺戮をもって殺した。

22 その預言者がイスラエルの王に近づいて彼に言った。「行って、自らを強め、何をすべきかよく考え、備えなさい。年が改まると、アラムの王があなたに攻め上って来るからです。」

23 アラムの王のしもべたちは彼に言った。「彼らの神は丘の神です。それゆえ、彼らはわれわれよりも強かったのです。しかし、われわれが平野で彼らと戦えば、われわれは必ず彼らよりも強くなります。」

24 この事を行ってください。王たちを皆その地位から除き、彼らの代わりに隊長たちを就かせてください。

25 そして、あなたが失った軍勢と同数の軍勢を、馬には馬、戦車には戦車として召集してください。われわれが平野で彼らと戦えば、われわれは必ず彼らよりも強くなります。」

彼は彼らの声に聞き従い、そのように行った。

26 年が改まると、ベン・ハダドはアラム人を召集し、イスラエルと戦うためにアフェクへ上って行った。

27 イスラエルの子らも召集され、食糧を備えて、彼らに立ち向かって行った。イスラエルの子らは子やぎの二つの小さな群れのように彼らの前に陣を敷いたが、アラム人はその地を満たしていた。

28 神の人が近づいてイスラエルの王に語って言った。「主はこう言われる。『アラム人が、  
「主は丘の神であり、谷の神ではない」と言ったので、わたしはこのすべての大群衆をあなたの手引き渡す。そうして、あなたがたはわたしが主であることを知るであろう。』」

29 彼らは互いに向かい合って七日間陣を敷いた。そして七日目に戦いが交えられ、イスラエルの子らは一日にしてアラム人の歩兵十万人を殺した。

30 しかし残りの者はアフェクの町の中に逃げ込んだが、残されていた二万七千人の男たちの上に城壁が倒れ落ちた。ベン・ハダドは逃げて、町の中の奥の部屋に入った。

31 彼のしもべたちは彼に言った。「見よ、われわれはイスラエルの家の王たちが、あわれみ深い王たちであると聞いています。どうか、われわれの体に粗布をまとい、頭に縄を巻いて、イスラエルの王のところに出て行かせてください。もしかすると彼はあなたの命を救ってくれるかもしれません。」

32 そこで彼らは体に粗布をまとい、頭に縄を巻いてイスラエルの王のところに来て言った。「あなたのしもべベン・ハダドは、『どうか、わたしを生かしてください』とっています。」

彼は言った。「彼はまだ生きているのか。彼はわたしの兄弟だ。」

33 さて、その男たちは注意深く様子をうかがい、急いでその言葉をとらえて言った。「あなたの兄弟ベン・ハダドです。」

すると彼は言った。「行って、彼を連れて来なさい。」

そこでベン・ハダドは彼のところに出て来たので、彼は彼を戦車に上らせた。

34 ベン・ハダドは彼に言った。「わたしの父があなたの父から奪った町々を、わたしは返還します。わたしの父がサマリアに造ったように、あなたはダマスコに自分のための通りを造りなさい。」

アハブは「わたしはこの契約をもってあなたを行かせよう」と言った。こうして彼は彼と契約を結び、彼を行かせた。

35 預言者の子らのある男が、主の言葉によって自分の仲間に行った。「どうか、わたしを打ってくれ！」

その男は彼を打つことを拒んだ。

36 そこで彼は彼に言った。「あなたが主の声に聞き従わなかったので、見よ、あなたがわたしから去るとすぐに、獅子があなたを殺すだろう。」彼が彼から去るとすぐに、獅子が彼を見つけて殺した。

37 それから彼は別の男を見つけて、「どうか、わたしを打ってくれ」と言った。

その男は彼を打ち、打って彼を傷つけた。

38 そこで預言者は去って行き、頭帯を目の上に巻いて変装し、道端で王を待った。

39 王が通り過ぎたとき、彼は王に向かって叫び、言った。「あなたのしもべは戦いの真ただ中に出て行きました。すると見よ、一人の男がわきにそれで、わたしのもとに一人の男を連れて来て言いました。『この男を見張れ！もし何らかの理由で彼がいなくなれば、あなたの命が彼の命の代わりとなるか、あるいはあなたが銀一タラント\*を払わなければならない。』

40 あなたのしもべがあちこちで忙しくしているうちに、彼はいなくなっていました。」

\* 20:39 20:39 一タラントは約30キログラム、または66ポンドである。

イスラエルの王は彼に言った。「あなたのさばきはそのようになる。あなた自身がそれを決めたのだ。」

41 彼は急いで目から頭飾りを取り去った。イスラエルの王は、彼が預言者の一人であることに気づいた。

42 彼は彼に言った。「主はこう言われる。『わたしが滅びのためにささげた男を、あなたの手から逃がしたので、あなたの命は彼の命の代わりとなり、あなたの民は彼の民の代わりとなる。』」

43 イスラエルの王は不機嫌に怒って自分の家に向かい、サマリアに来た。

## 21

1 これらの事の後、イズレエル人ナボテにはイズレエルにぶどう畑があった。それはサマリアの王アハブの宮殿のそばにあった。

2 アハブはナボテに語って言った。「あなたのぶどう畑をわたしに譲ってくれ。野菜畑にしたい。わたしの家のすぐそばにあるからだ。その代わりに、わたしはあなたにもっと良いぶどう畑を与えよう。もしあなたが望むなら、その価値に見合うだけの銀を支払おう。」

3 ナボテはアハブに言った。「わたしが自分の父祖の相続地をあなたに与えることを、主が禁じてくださいますように。」

4 アハブは、「わたしの父祖の相続地をあなたには与えない」と言ったナボテの言葉ゆえに、不機嫌で憤って家に帰った。彼は寝台に横になり、顔を背け、パンを食べようとはしなかった。

5 彼の妻イゼベルが彼のもとに来て、彼に言った。「なぜあなたの心はそれほど不機嫌で、パンを食べようとしらないのですか。」

6 彼は彼女に言った。「わたしがイズレエル人ナボテに、『あなたのぶどう畑を金で譲ってくれ。あるいは、もし望むなら、その代わりに別のぶどう畑をやろう』と言ったからだ。しかし彼は、『わたしのぶどう畑をあなたには与えない』と言った。」

7 彼の妻イゼベルは彼に言った。「あなたは今、イスラエルの王国を支配しているのですか。起きてパンを食べ、心を明るくしなさい。わたしがイズレエル人ナボテのぶどう畑をあなたに与えます。」

8 そこで彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印を押して封をし、ナボテの町に住む長老たちと貴族たちにその手紙を送った。

9 彼女はその手紙の中にこう書いた。「断食を布告し、ナボテを民の頭に座らせよ。」

10 そして二人のならず者を彼の前に座らせ、彼らにこう証言させよ。『あなたは神と王を呪った。』それから彼を外に連れ出し、石で打って殺せ。」

11 彼の町に住む人々、すなわち彼の町の長老たちと貴族たちは、イゼベルが送った手紙に書かれていたとおりに行った。彼女が彼らに送った手紙に記されていたとおりにしたのである。

12 彼らは断食を布告し、ナボテを民の頭に座らせた。

13 二人のならず者が入って来て、彼の前に座った。ならず者たちは民の前でナボテに対して証言し、「ナボテは神と王を呪った」と言った。そこで彼らは彼を町の外に連れ出し、石で打って殺した。

14 それから彼らはイゼベルに人を遣わして、「ナボテは石で打たれて死にました」と告げた。

15 イゼベルはナボテが石で打たれて死んだことを聞くと、アハブに言った。「起きて、イズレエ

ル人ナボテがあなたに金で売ることを拒んだぶどう畑を所有しなさい。ナボテは生きてはおらず、死んだからです。」

16 アハブはナボテが死んだことを聞くと、起きてイスラエル人ナボテのぶどう畑を所有するために下って行った。

17 主の言葉がティシュベ人エリヤに臨んで言った。

18 「起きて、サマリアにいるイスラエルの王アハブに会いに行きなさい。見よ、彼はナボテのぶどう畑を所有するために、そこにいる。彼はそれを所有しに下って行った。

19 あなたは彼にこう語りなさい。『主はこう言われる。「あなたは殺したうえに、所有までしようとするのか。」』また彼にこう言いなさい。『主はこう言われる。「犬がナボテの血をなめたその場所、犬はあなたの血、あなた自身の血をもなめる。」』」

20 アハブはエリヤに言った。「わたしの敵よ、あなたはわたしを見つけたのか。」

彼は答えた。「見つけました。あなたが主の御目に悪であることを行うために自分を売ったからです。

21 見よ、わたしはあなたにわざわいをもたらし、あなたを一掃する。わたしはアハブから、壁に向かって放尿する者\*

、またイスラエルにいる閉じ込められた者も、自由に残された者も断ち切る。

22 わたしはあなたの家をネバテの息子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの息子バアシャの家のようにする。あなたがわたしを怒らせ、イスラエルに罪を犯させたからである。

---

\* 21:21 21:21 または、男子

23 主はイゼベルについても言われた。『犬がイズレエルの城壁のそばでイゼベルを食うであろう。』

24 アハブに属する者で町で死ぬ者は犬が食い、野で死ぬ者は空の鳥が食う。」

25 (実際、妻イゼベルにそそのかされて、主の御目に悪であることを行うために自分を売ったアハブのような者は一人もいなかった。

26 彼は主がイスラエルの子らの前から追い払ったアモリ人が行ったすべてのことと同じように、偶像に従って非常に忌むべきことを行った。)

27 アハブがこれらの言葉を聞いたとき、彼は自分の服を引き裂き、粗布を体にまとい、断食し、粗布の中で寝て、うなだれて歩いた。

28 主の言葉がティシュベ人エリヤに臨んで言った。

29 「アハブがわたしの前に自分を低くしたのを見たか。彼がわたしの前に自分を低くしたので、わたしは彼の生きている間にはわざわいをもたらさない。彼の息子の時代に、彼の家へわざわいをもたらす。」

## 22

1 アラムとイスラエルの間に戦いのないまま、三年が過ぎた。

2 三年目に、ユダの王ヨシャファテがイスラエルの王のもとに下って来た。

3 イスラエルの王はしもべたちに言った。「ラモテ・ギレアデがわれわれのものであることを、あなたがたは知らないのか。それなのに、われわれはアラムの王の手からそれを奪い返さずに、黙っているのか。」

4 彼はヨシャファテに言った。「わたしと一緒にラモテ・ギレアデへ戦いに行くか。」

ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「わたしもあなたも、わたしの民もあなたの民も、馬もあなたの馬も同じです。」

5 ヨシャファテはさらにイスラエルの王に言った。「どうか、まず主の言葉を伺ってください。」

6 そこでイスラエルの王は約四百人の預言者を集め、彼らに言った。「わたしはラモテ・ギレアデへ戦いに行くべきか、それともやめるべきか。」

彼らは言った。「上って行きなさい。主がそれを王の手に引き渡されます。」

7 ヨシャファテは言った。「ここには、われわれが伺いを立てることができるような主の預言者が、まだだれかいないのでしょうか。」

8 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「まだ一人の男がいますが、彼を通して主に伺いを立てることができます。イムラの息子ミカヤという者です。しかし、わたしは彼を憎んでいます。彼はわたしについて良いことは預言せず、悪いことだけを預言するからです。」

ヨシャファテは言った。「王よ、そのようなことを言わないでください。」

9 そこでイスラエルの王は一人の役人を呼び、「イムラの息子ミカヤを急いで連れて来い」と言った。

10 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服を着て、サマリアの門の入り口にある広場で、王座に座っていた。すべての預言者が彼らの前で預言していた。

11 ケナアナの息子ゼデキヤは自分のために鉄の角を造り、言った。「主はこう言われます。『これをもって、あなたはアラム人を突き刺し、ついに彼らを滅ぼすであろう。』」

12 すべての預言者たちも同じように預言して言った。「ラモテ・ギレアデへ上って行き、勝利を収めなさい。主はそれを王の手に引き渡されます。」

13 ミカヤを呼びに行った使者は彼に語って言った。「見よ、預言者たちの言葉は皆、一致して王に良いことを告げている。どうか、あなたの言葉も彼らの言葉のようになり、良いことを告げてくれ。」

14 ミカヤは言った。「主は生きておられる。主がわたしに告げられること、それだけをわたしは語る。」

15 彼が王のところに来ると、王は彼に言った。「ミカヤよ、われわれはラモテ・ギレアデへ戦いに行くべきか、それともやめるべきか。」

彼は彼に答えた。「上って行き、勝利を収めなさい。主はそれを王の手に引き渡されます。」

16 王は彼に言った。「何度、わたしはあなたに誓わせなければならないのか。あなたが主の御名において、真実なこと以外は何も語らないようにと。」

17 そこで彼は言った。「全イスラエルが羊飼いのいない羊のように山々に散っているのを、わたしは見ました。主は『彼らに主人がない。それぞれ自分の家に平安のうちに帰らせよ』と言われました。」

18 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「彼がわたしについて良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると言ったではないか。」

19 ミカヤは言った。「ですから、主の言葉を聞きなさい。わたしは主が王座に座っておられ、天のすべての軍勢がその左右に立っているのを見ました。」

20 主は言われました。『だれがアハブを誘い出し、彼が上って行ってラモテ・ギレアデ

で倒れるようにするのか。』ある者はこう言い、別の者はそのように言いました。

21 すると一人の霊が出て来て主の前に立ち、『わたしが彼を誘い出します』と言いました。

主は彼に、『どのようにしてか』と言われました。

22 彼は『行って、アハブのすべての預言者の口の中に偽りの霊となります』と言いました。

主は言われました。『あなたは彼を誘い出し、それを行うことができる。行って、そのようにせよ。』

23 ですから今、見よ、主はこれらのあなたのすべての預言者の口の中に偽りの霊を入れられました。

主はあなたに対してわざわいを語られました。」

24 ケナアナの息子ゼデキヤは近づき、ミカヤの頬を打って言った。「主の霊がどの道を通ってわたしから離れ、あなたと語ったのか。」

25 ミカヤは言った。「見よ、あなたが身を隠すために奥の部屋に入るその日に、あなたは知ることになる。」

26 イスラエルの王は言った。「ミカヤを取り、町の長官アモンと王の息子ヨアシュのところへ連れ戻せ。」

27 そして言え。『王はこう言う。「この男を監獄に入れ、わたしが平安のうちに帰るまで、苦しみのパンと苦しみの水を与えよ。」』」

28 ミカヤは言った。「もしあなたが平安のうちに帰るなら、主はわたしを通して語られなかった。」そして彼は言った。「聞け、すべての民よ！」

29 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギレアデへ上って行った。

30 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「わたしは変装して戦いに入る。しかしあなたは王

服を着ていなさい。」イスラエルの王は変装して戦いに入った。

31 アラムの王は、彼の戦車の長たち三十二人に命じて言った。「身分の低い者とも高い者とも戦わず、ただイスラエルの王だけを相手にせよ。」

32 戦車の長たちがヨシヤファテを見たとき、彼らは「確かにこれはイスラエルの王だ」と言い、彼を攻撃しよう向きを変えた。ヨシヤファテは叫び声を上げた。

33 戦車の長たちは、彼がイスラエルの王ではないのを見て、彼を追うのをやめた。

34 ある男が何げなく弓を引くと、イスラエルの王の甲冑の継ぎ目に当たった。王は御者に言った。「向きを変えて、陣営の外へわたしを連れ出せ。わたしは傷ついたからだ。」

35 その日の戦いは激しく、王は戦車の中でアラム人に向かって身を支えていたが、夕方には死んだ。血が傷口から戦車の底に流れていた。

36 日が沈むころ、陣営のすべての者に叫びが広まった。「それぞれ自分の町へ、それぞれ自分の土地へ！」

37 王は死に、サマリアに運ばれ、彼らはサマリアで王を葬った。

38 彼らはサマリアの池で戦車を洗った。犬が彼の血をなめ、娼婦たちがそこで身を洗った。それは主が語られた言葉のとおりであった。

39 アハブのその他の事績、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象牙の家、彼が建てたすべての町々は、イスラエルの王たちの年代記の書に記されているではないか。

40 アハブは父祖たちとともに眠りにつき、その息子アハズヤが彼に代わって王となった。

41 イスラエルの王アハブの第四年に、アサの息子ヨシャファテがユダの王となった。

42 ヨシャファテは王になり始めたとき三十五歳で、エルサレムで二十五年間統治した。彼の母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。

43 彼は父アサのすべての道を歩み、そこから逸れなかった。彼は主の御目に正しいことを行った。しかし、高き所は取り除かれず、民はまだ高き所でいけにえをささげ、香をたいていた。

44 ヨシャファテはイスラエルの王と和睦した。

45 ヨシャファテのその他の事績、彼が示した力、彼がどのように戦ったかは、ユダの王たちの年代記の書に記されているではないか。

46 彼の父アサの時代に残っていた神殿男娼の残党を、彼はその地から一掃した。

47 当時、エドムには王がなく、総督が統治していた。

48 ヨシャファテはオフィルに金を取りに行くためにタルシシュの船を造ったが、それらはエツヨン・ゲベルで難破したので、行けなかった。

49 その時、アハブの息子アハズヤはヨシャファテに、「わたしのしもべたちをあなたのしもべたちとともに船に行かせよ」と言ったが、ヨシャファテは承諾しなかった。

50 ヨシャファテは父祖たちとともに眠りにつき、父ダビデの町に父祖たちとともに葬られた。そしてその息子エホラムが彼に代わって王となった。

51 ユダの王ヨシャファテの第十七年に、アハブの息子アハズヤがサマリアでイスラエルの王となり、二年間イスラエルを治めた。

52 彼は主の御目に悪であることを行い、彼の父の道、彼の母の道、またイスラエル

に罪を犯させたネバテの息子ヤロブアムの道を歩んだ。

<sup>53</sup> 彼はバアルに仕えてこれを拝み、彼の父が行ったすべてのことと同じように、イスラエルの神、主を怒らせた。

フリーダム・バイブル  
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom  
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は [eBible.org](http://eBible.org) です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を [ebible.org+jpnm@gmail.com](mailto:ebible.org+jpnm@gmail.com) までお寄せください。

2026-07-08

---

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424